

金光学園

# やっなみ

2021.3





# 卒業式





## 高2 芸術選択者発表会（音楽）



### 変化する時代に生きる

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。  
 昨年から新型コロナウイルス感染症拡大により社会全体が大きな影響を受け続けています。数々の学校行事、講演会、イベントやコンサート、修学旅行なども取り止め、延期となりました。

卒業生のみなさんも、共通テストという新しいかたちへの移行、又コロナによって多くの面でもまどう事もあつただろうと思います。これからは個々の多様性を認める時代となっていくことでしょう。それを認めて育てることが出来る環境を創ってあげられたらと思います。

コロナ禍の中、役員として十分な事が出来ないまま任期を終えようとしています。この2年間で多くの先生方と接し、金光学園の教育に対する考え方に触れる機会をいただきました。自分自身、少しは成長できたのかと考えることもありです。

例えば、吹奏楽部の演奏に感動して入学式を迎えたのが、ついこの前のように感じます。私にとってあつという間の4年間でした。

最後に、今私たちを取り巻く世の中はコロナ禍をはじめ自然災害、IT技術の進歩などニューノーマルな様式へとシフトし、多様化することによって、社会が求めるものも変化してきています。

卒業生のみなさんは、失敗を恐れずどんどんやりたいことにチャレンジして新しい時代を築き上げて下さい。

でも、世の中が変化しても金光学園で教えていただいた、人を思いやる心、物を大切にすることは、いつまでも持ち続けて欲しいと願っています。

（金光学園やつなみ保護者会副会長）

山下 洋子

### 目次

巻頭言	1
第73回高校卒業式	2
道(28)	26
メタセコイヤ	28
活躍おめでとう	30
やつなみ保護者会のページ	31
会報	33
活躍する卒業生	34
学園随想(78)	36
ある日のホームルーム	38
中2学年集会	40
生徒会活動	43
生徒入賞作品	46
学園だより	48
教室の窓から	50
編集後記	

# 第73回高校卒業式

## 式辞

校長 金光 道晴



立春を過ぎてから、ポカポカ陽気の暖かい日があったと思えば、大寒波が到来して各地に大雪の被害をもたらすような日もあり、文字通り三寒四温が続きましたが、今日は昨日からの雨もすっかり上がり、穏やかなお日和の中で、麗しく第73回高等学校の卒業式を迎えさせて頂き

ました。

今年の卒業式も新型コロナウイルスの影響で、昨年に続いて来賓の方々をお招きせず、在校生の出席もない中での実施となつてしまいました。出席できない人たちの気持ちも合わせ、心を込めて皆さんを送り出したいと思っております。

はじめに保護者の皆様にお祝いとお礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございます。お子様が新入生として入学してこられた3年ないし6年前も、過ぎ去つてみればついこの前のようには思われます。保護者の皆様には、こうしてお子様が無事学園生活を終えて、今日の卒業式に臨まれることを感無量の思いでお迎えになられていることと存じます。

改めて入学以来、学園教育の全てにわたりまして、今までいただいたいきりましました、温かいご理解と格別のご協

## 卒業式の概要

今年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症の影響により、在校生や来賓の参加を取り止めるとともに、規模を縮小して実施した。

2月27日朝8時5分、卒業生184名を代表して、各クラス2名が金光教本部修徳殿に参拝し、田中健太さんが卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意をお届けした。

第1部の式典は、ほつま体育館にて10時に開式。国歌清聴の後、金光道晴校長より総代の難波拓也さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、神田繁雄常務理事より記念品として金光教典抄「天地は語る」と前金光教教主のお筆になる「学園の合言葉」

力に御礼を申し上げますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、184名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝は本来なら、学園生として全員での最後の金光教本部広前への参拝後、式に臨むところでしたが、各クラスの代表の生徒だけの参拝となりました。

田中健太君が代表して、ここまで成長させていただいたことの御礼と、ここからお願いの届けをされ、教主金光様から「本日はおめでとうございます。ただいま代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になる全てに礼をいう心をもって進んでいかれますよう願つてやみません」とのお言葉をいただきました。そして先程は卒業証書をいただきましたので、高等学校第73回卒業生になられたのであります。誠にありがとうございます。

皆さんは、高3になっていきなり休校が長く続き、オンライン授業でのスタートになったり、部活動などでは、高3としての最後の大会や発表会が出来なかつたり、制限されたりして残念な思いになつ

たと思ひますし、大学入試においても、コロナ感染拡大の中で、様々な変更や対応が求められ、出願から受験に至るまで、心配や不安の連続だったと思ひます。

今年から始まった大学入学共通テストの初年度として、様々な変更があつたこともそれに輪をかけたのではないでしようか。しかし、そんな中で、皆さんは弱音を吐かず、しっかりと現状を受け止め、大変良く頑張つたと思ひます。

私はそんな皆さんに週に1時間ではありましたが、宗教の時間で色々な話をさせてもらい、皆さんのスピーチも聞かせてもらいました。今日の式辞は最後の宗教の時間のつもりで、また学園教育最後の場として、「合言葉」について特に私にとって嬉しかった3つの話をさせてもらおうと思ひます。

1つ目は宗教の時間の生徒のスピーチの中であります。あるクラスの女子生徒が6年間を振り返って、中学から書道部に入部して、頑張ってきたという話を話しましたが、その時この自分で書いた合言葉の書をみんなに紹介しました。

の色紙が総代の延平菜姫さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 岩崎道興氏の挨拶、送辞（西森翔真さん）、答辞（堀日向子さん）と続き、最後に「金光学園歌」清聴で第1部は閉会した。

第2部の祝宴は、引き続きほつま体育館で行われた。最初にやつなみ保護者会会長 上迫豊氏の挨拶があり、次に学園生活の3年間ないし6年間を振り返る「あしあと」が山本澄枝先生、奥野公子先生、天野浩美先生の司会のもと、高3学年団を中心に上演された。写真とナレーションで入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思いを馳せた。続いて卒業生保護者代表 和田治子氏より謝辞が述べられ、亀山妙子氏より記念品目録（生徒用パソコン80台）の贈呈が行われた。終わりに卒業生代表の川田清華さん、学校代表の横山俊則高校教頭よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立つた。



そのクラスの人は覚えていると思いますが、私はそのスピーチの後に、良かったらその書をもらえないかとその生徒に頼み、もらったものがこれでありました。それから校長室の見える所に貼っていたのですが、今日ここへ持ってきました。合言葉を大切にしていってくれているという思いが伝わり、私にとっても大変嬉しいスピーチとなったのであります。

また、あるクラスの男子生徒はスピーチの後に、私の真似をして、それでは最後に「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに 終わります」と言っていてスピーチを締めくくったこともありましたが、スピーチの中に出てくる「合言葉」にはのほのと嬉しい気持ちになったことを覚えていています。

2つ目の合言葉の話は、皆さんは卒業にあたっての短歌や文章を書いています。その中で私に対してメッセージを書いてくれた人がいて、担当の先生がそれを届けてくれました。その文章の一部を紹介させていただきます。

「宗教の時間を終えた今、金光学園に通って良かったと改めて思いました。6

年前ほとんど知らなかった金光教の存在がこんなにも人として成長できるものになると思いませんでした。

合言葉の本当の意味、金光教の深さを宗教の時間で知ることができた気がします。何度も聞いた合言葉が間違いなく私を成長させてくれました。これから歩む私の人生の中で、学園の合言葉はずっと胸に刻まれ続けると確信しています」というものでした。

宗教の時間では仏教やキリスト教の話もしましたし、素晴らしい生き方をした先輩方の話もしましたが、先程紹介した合言葉の意味をすっかり受け止めてくれたメッセージは私にとって、とても嬉しいものでした。

最後の3つ目の合言葉の話です。それはこの竹に書かれた合言葉です。これは10日ほど前、中学1年の生徒のお祖父さんと真備町に住まれている方から保護者の方を通じて届けて下さったものです。昨日まで正面玄関の事務室の前にかけていましたが、それを持ってきたのであります。

真備と言えば2年半前あの西日本豪雨災害で大変な被害に遭ったところであり

## 送 辞

在校生代表 西森 翔眞



里見川の水面に柔らかな日差しが煌めき、校内の至るところで、春がその訪れを告げています。今日この良き日に、新たな世界へ旅立って行かれる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

この金光学園で多くのことを成し遂げてきた先輩方の晴れやかな眼差しに、私たちは嬉しさと誇らしさ、そして一抹の寂しさを感じずにはいられません。それほど、先輩方は私たちにあって、大きな存在でした。

振り返ってみますと、先輩方は、探究

ます。その時この生徒の家は高台にあって、被災しなかったようですが、お祖父さんのお家は全てを流されてしまうほどの大変な被害に遭われたようであります。そんな中で頑張っておられた方だそうであります。

真備町は竹やタケノコの産地として有名ですが、そのお祖父さんは竹を使った工芸品を作るの趣味としておられ、お孫さんが持つて帰る学園の「やつなみ」に掲載されている「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉はとても良い言葉と言われ、このように竹に彫ってというか書いて届けてくださったのであります。

私にとっては、「やつなみ」を読んでもださっているだけでも嬉しいことなのに、このようなものを趣味とはいえ大変な時間をかけて作って頂いたのであります。生徒や保護者の方だけでなく、お祖父さんまで大切に下さっていることに大変感激したようなことでもあります。

合言葉について嬉しかった3つの話を聞いていただきましたが、今日の記念品の1つである色紙にもこの言葉が書かれています。どうぞ卒業してからも、一生

の宝物として大切にしていって欲しいと願っています。

皆さんは今日、この学び舎を巣立って行くわけですが、これからの生活は、これまでのようにいつも温かい支援や援助のあるものとは限りません。大きな試練や厚い壁にぶつかることもあると思います。もし自分だけで解決できないような困難なことに遭遇し、すぐに助けが得られないようなことがあれば、是非学園の校章と同じ、「やつなみ」のご紋のある近くの金光教の教会を訪ねてみて下さい。きっと力になっていただけたらと思います。

また東京や関西をはじめ、全国いたる所で、皆さんの先輩である大勢の学園の卒業生が活躍しています。そんな先輩方も必ず力になってくれるはずですよ。家族や友達や先生など多くの人に祈られ、支えられていることも忘れないで下さい。

勉学はもとより、健康な体、大切な友、そして何より、人として大切な心を身につけることができたと思っています。皆さんのご健勝とご多幸を心からお祈りし、終りにもう一度「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉を申し上げて、式辞といたします。

授業でさまざまな課題研究に熱心に取り組まれました。文系でも理系でも数多くのコンテストや発表会で多くの賞を受賞されました。また、多くの先輩方が自習室などで遅くまで勉強に励み、推薦入試に向けてテーマを共有し、お互いに自主的な面接練習を行うなど、切磋琢磨して頑張っておられました。私たちはひたむきに努力する姿勢と仲間とともに支え合う強い絆の大切さに気付かされました。

また、部活動でも輝かしい結果を残されました。体育部では、バレーボール部・



少林寺拳法部が全国大会へ、陸上競技部・剣道部・卓球部が中国大会へ出場されました。文化部では、音楽部吹奏楽団・電気科学部が全国大会へ、音楽部コーラスが中国大会へ出場されました。書道部もさまざまな賞を受賞されました。私たちは先輩方のこれまでに活躍された姿を胸に刻み、先輩方を目標にこれからも頑張っていこうと思います。

さて、社会に向けてみると、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの行事や大会などが中止になってしまいました。しかし、そんな中でも様々な分野での活躍が見られました。藤井聡太棋士が最年少でタイトルを獲得し、女子テニスの大坂なおみ選手が2度目の全豪オープン優勝を飾り、コロナ禍の社会を元気づけるニュースが多く見られたように思います。

社会がコロナ禍で落ち込む中、先輩方は、最高学年として、私たちが在校生を導いてくださいました。私が特に印象的だったのは、体育会です。1つ1つの競技に全力で取り組み、他のどの学年よりも楽しんでるように見えました。中でも綱引きなどで見られたブロックを越えての応



援は、3年生の団結力が感じられ、体育会が大いに盛り上がったと思います。また、大会やコンクールの中止が決まった後の先輩方の姿は今でも鮮明に覚えています。誰よりも辛く、悲しいはずなのに、「中止になったのは残念だが、前へ進もう」という言葉をかけてくださいました。コロナ禍に怯まず、自分たちにできる最大限の力を常に発揮しておられた先輩方のたくましい背中には、私たちが在校生に大きな勇気をもたらしてくださいました。

世代をこえ、私たちに多くの笑顔と勇気を与えてくれた志村けんさんの言葉に、「最初から全力でいかないやつは、その時点で先がない。努力なんですよ」というものがあります。卒業され、新たな道を歩んで行かれる先輩方は、社会に出て、時には壁にもぶつかると思います。そんな時、この言葉にあるように全力で努力して、前に進み続ければ壁を乗り越えられ、道は拓けるはずです。先輩方のこれからの更なる活躍を、私たちが在校生は楽しみにしています。

先輩方は、今日を境に新たな一歩を踏み出されます。それぞれ進む道が違って、この学園生活の中で培ってきた絆や思い

出は先輩方にとってかけがえのないものになると思います。これからも自信をもって夢に向かって歩み続けてください。私たちは先輩方に教えていただいたことを胸に、金光学園をより一層素晴らしい学校にしていきたいと思えます。

最後になりましたが、先輩方のご健康とますますのご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

## 答 辞

卒業生代表 堀 日向子



冬の寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れが感じられる季節となりました。本日はさまざまな行事の開催が難しい

中、私たちのために、このように厳粛で盛大な卒業式を挙行していただき誠にありがとうございます。思い起こせば、3年ないし6年前、真新しい制服に身を包み、学園生としての第一歩を踏み出した日がつい昨日のことのように思い出されます。以来、私たちは素晴らしい仲間たちと共に切磋琢磨しながら、勉強や部活動、学校行事に取り組み、今日という日を迎えることができました。私たちの門出にあたり、多くの方からお祝いや激励のお言葉をいただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

さて昨年は、日本だけでなく世界中が新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けました。世界32カ国がロックダウンし、多くの国で非常事態宣言が発令されるなど、経済の停止や長期間の自粛を余儀なくされました。2月には、日本政府が全国の小・中・高等学校に休校を要請し、本校も長い休校期間に入りました。さらに学校が再開した後も、インターハイ等の大会や演奏会といった私たち高校3年生にとっては集大成ともいえる最後の舞台までも軒並み中止となり、私たちはやり場のない悲しさや悔しさを感じました。

新型コロナウイルス感染症は現在も世界各地で猛威を振るいつづけており、まだまだ予断を許さない状況が続いています。

しかし、そのような状況の中でも、前向きに行動を起こしている人々もいます。皆さんは、シトラスリボン運動という活動をご存じでしょうか。シトラスカラーのリボンを胸元や持ち物につけることで、感染者や医療従事者への差別や偏見に反対する意思を示すという運動です。「たとえウイルスに感染したとしても、誰もが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会に」という願いから生まれました。それぞれが暮らす場所で「たぐいま」 「おかえり」を言い合える、思いやりがあり暮らしやすいまちづくりを目的としたこの活動は愛媛県の有志グループから始まり、今では全国各地に広がっています。

また、国から国民一人ひとりに給付された10万円を本当に困っている人たちに届けたいという願いから、寄付された方々もたくさんいました。驚くことに私たちと近い20代の若者たちの寄付率はどの世代よりも高かったそうです。新型コロナウイルスは、国籍も民族も宗教も関係なく、すべての人を容赦なく攻撃します。この

危機に打ち勝つには、人々が様々な枠組を超えて互いに助け合い、協力することが大切です。これからの未来を担っていくのは私たちです。私たちもこのような行動を起こした人たちのように他の人のために行動する、互いに助け合える人間になって、私たちが輝く未来を築いていきたいと思っています。

私たちが今日無事に卒業式を迎えることができたのは、様々な人たちの支えがあったからです。まずは、共に学園生活を送ってきた高校3年生の仲間たち。学校行事や部活動でのたくさんの思い出、何気ない日常が今となっては一生の宝物になりました。これから歩んでいく道は異なりますが、心の中にはいつも仲間がいます。それぞれの道でお互い一生懸命努力していきましょう。そして、学校行事では一緒に楽しみ、授業では情熱をもって接して下さった多くの先生方。私たちの個性や意思を尊重し、それぞれが思い描く将来のために、親身になって相談に乗り、様々なアドバイスをくださいました。先生方がいたからこそ今の私たちがいます。卒業後、成長した姿をお見せできるように、精一杯努力したいと思

ます。最後に、一番身近で、常に私たちが温かく見守り、応援してくれた家族。様々なことが原因で悩みを抱えていた時に、時には静かに見守り、時には優しく声をかけ、相談に乗ってくれたことで私たちはとても救われました。本当に感謝しています。これからは私たちが家族の支えとなれるように、成長していきたいと思

います。今日の式に在校生は代表生徒しか参列することは出来ませんが、これからの金光学園を担う皆さんに伝えたいことがあります。それは自分の可能性を信じるということです。自分が挑戦したいことがあるなら、立ちどまって時を待つのではなく、まずは行動することです。

今日の日式に在校生は代表生徒しか参列することは出来ませんが、これからの金光学園を担う皆さんに伝えたいことがあります。それは自分の可能性を信じるということです。自分が挑戦したいことがあるなら、立ちどまって時を待つのではなく、まずは行動することです。

1%でも夢や目標に近づく、あるいは届く可能性があるなら一歩を踏み出すべきです。なかなか一歩が踏み出せない時は周りの友達や家族、そして熱心にサポートしてくださる先生方を頼りにしてください。きっと前に進めるはずですよ。自分の人生、金光学園での生活は一生に一度しかありません。一番大切にしなければならぬのは今この瞬間です。今置かれ

ている環境で全力を尽くし精一杯勉強や部活動・学校行事に取り組むことが、未来をつくる力に繋がると思っています。後悔することのないよう、一日一日を大切にしてください。

本日をもちまして私たちは金光学園を巣立ち、自分の夢や目標に向かって新たなステージへ進んでいきます。そこには沢山の高い壁や様々な困難が待ち受けていることでしょう。しかし金光学園で学んだ事は必ず私たちに強く支えてくれます。合言葉である「人をたいせつに」自分をつたいせつに、物をたいせつに」を忘れずに、新たなことや困難なことにも積極的に挑戦していきたいと思

います。最後にになりましたが、これまで支え応援してくださった全ての皆様に深く感謝を申し上げるとともに、金光学園の更なる発展を願い、答辞とさせていただきます。



答辞 送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3 橋本 花穂 堀 日向子  
谷本きなり 浦上 伊織  
藤原 隼輔 高村 廉  
永原 みゆ 小田原克海

◇送辞起草委員◇

高2 筒井 雄大 安福 柊汰  
西森 翔真 森井 颯汰  
栗原万由子 三澤 葵  
北村 太陽 光畑 藍未  
高1 白石 悠樹 為房 奎介  
新田 晃岐 磯部 純平  
道廣 尚汰 坂野 友美  
松本 侑桜 坂本 沙織  
石井 雄人

# 贈る言葉

## 自分の道を楽しんで

森下 美穂

高校時代の私は反抗期真っ只中で髪が腰まで長くスカートもそれ以上に長く、ベチヤンコのかばんになんとか仕上げた宿題を入れて毎日眠い目を擦りながら自転車通学で学校に通っていました。憧れて入った高校では先生達が偏差値≠自分達の価値のような見方をしているように感じて「何のために勉強しなくてはいけないのか?」「早く自由になってやりたいことだけに時間を使いたい」といったことばかり考えて過ごしました。そんな私の好きな教科は生物と世界史。しかし、世界史の時間には図表ばかり眺めては、大学生になってアルバイトをしたら絶対行くぞと決めた国や見たい史跡のリストアップばかりしていました。

親元を離れて大学生になった私は生物の勉強とバスケットボール、そして様々なアルバイトに励みました。アルバイトでは世の中にはいろいろな仕事があるこ

とを知り、自分の仕事に誇りを持ち取りくんでいるカッコいい大人にたくさん出会いました。貯めたお金で行きたかった国にも行きました。中国の万里の長城でスリに追いかけられるなど数々のトラブルにも見舞われましたが、今まで見たことのない美しい景色に感動し、自分が住んできた世界がいかに狭い世界であったかを実感しました。また、フィリピンで子供たちが毎日ゴミをあさって生活している様子を目の当たりにして、貧困や紛争で苦しんでいる人が世界には数多くいる中で「人が安心して暮らせる社会とは?」「人の幸せとは何か?」という問いを持ち、深く考える契機になりました。

さらに、重度障がい者でも参加できるように考案された車椅子ツインバスケットボールチームに所属して共に過ごした日々の中で、「障がい者と健常者は本当に違うのか?」「必要な支援の在り方とは?」ということについて考え、自分に出来ることを模索しました。このような経験は、



はなむけの言葉  
やつなみ保護者会会長 上迫豊

自分の人生を作る上で、決定的な学びの場になりました。そして、高校時代のさまざまな教科の勉強は、世の中のことを理解したり解決の糸口を辿るにはまだまだ基礎的なものだったと感ぜられるようになり、自分自身の無知に気づかされました。

人の一生は、長き道を歩む旅のようなものだと思います。まっすぐ歩くことも大切ですが、寄り道も回り道も必要です。自分の目で見て自分と異なる意見や見方を知ること、自分が正しいと思ってい

た答えや常識も実は間違っていたのではないかと立ち止まって考えることが出来ます。常識に縛られず、前例にとらわれず、変えなくてはならないことは変えていくべきなのではないかと思えます。今後の若い人の発想力こそ、社会を変える力となります。ぜひさまざまなことに挑戦し、自分にしか見えない景色を見ながら、時には困っている誰かの助けとなり、自身自身の人生の道中を楽しみながら歩んで行ってほしいと思います。卒業おめでとうございます。皆さんのさらなる飛躍を心から願っています。

## 学園ファミリィ

高田 直樹

卒業おめでとー!

あつという間の3年間でした。3年間みんなと過ごしていく中で、いろんなことがありましたが、振り返ってみると君達は本当に温かかったように感じます。時には優しく、時にはこちらをイライラさせ、時には楽しく笑顔になりました。高1の時にはビックリするくらい指導の数、そんなみんなが3年生になると見違えるように成長した姿になり、心の底

から嬉しい気持ちになったのを今でも鮮明に覚えています。本当にみんなは私の家族のように温かな存在だったと勝手に思っています。だからこそ、家族が困ったときにはこれからも力になりたいし、応援したい。いつでも学校に顔を出して成長した姿を見せてください。勝手に「学園ファミリィ」。みんな最高でした。

## 当たり前ではない≠ありがとう

水野 大一

タイトルの通り、とりわけこの1年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまで私たちにとってごくごく「当たり前」と思っていた生活が当たり前ではない状況になりました。「当たり前」のことが当たり前ではなかったということ、つまり「有難い」ことであったと言えるのではないのでしょうか。

言うまでもないかもしれませんが、「ありがとう」という言葉は、この「有難い・有難し」という言葉の派生語でしょう。そう考えると、我々のごく当たり前の日常は、実はありがたいこと、「ありがとう」の連続なのでしょう。さて、この「ありがとう」の言葉って、

本当に素敵な言葉だと思います。なぜ、私がそう考えるのかといいますと、「ありがとう」の言葉は、言った人も言われた人も清々しい幸せな気持ちになるからです。ある書籍には、人から何かしてもらうことよりもむしろ、何かをすることで「ありがとう」と言われた、感謝された時、幸せを感じるホルモンが最も分泌されるのだと書かれていました。世知辛いご時世だからこそ、この「ありがとう」という魔法の言葉を大事にしたいなとあらためて思う、今日この頃です。

## さらなる成長を

友田 勝己

みなさん卒業おめでとーございます。高校生活の3年間をみなさんと一緒に過ごすことができ、とても幸せでした。さて、あるインターネットの世論調査によると、日本の理想的なリーダーとして、坂本龍馬が第1位に挙がったようです。閉塞感の続く今の日本において、明治維



新という大変革の大きなきつかけとなった彼の生き様は、まさに今の日本が求める人物としてふさわしいと思えるかもしれません。作家の司馬遼太郎は、長編歴史小説『竜馬がゆく』の中で「天がこの国の歴史の混乱を收拾するためにこの若者を地上にくだし、その使命が終わったとき惜しげもなく天に召しかえした」と書いてるように、坂本龍馬は維新史の奇跡といわれる人物です。それとともに、幕末の混乱期にあつて、時代の風を読み、いち早く象徴的に自己変革を果たした人物です。坂本龍馬が友人の檜垣清治と行きあつたに、自分を変革していた有名な話があります。「長い刀から短い刀」「短い刀からピストル」「ピストルから万国公法」というように、古い武器から新しい武器、新しい武器から法律に、変化の象徴を求めながら、自分自身の変化を告げた話です。龍馬の変革は、そのまま彼が「土佐藩人から日本人へ」「日本人から国際人へ」という転換をおこなっていったということでしょう。今の世の中で活動しようとも、世界の動きを無視しては仕事もできません。「常に広い視野と情報収集」が大事です。そして、「絶えず、

自己変革をおこない続ける」ことが成功の秘訣でしょう。  
金光学園を卒業して新しい扉を開いて進んでいくみなさんが、夢と勇氣あふれる人間として活躍することをいつまでも応援し、見守っています。

### 最も輝ける「道」へ

奥野 公子

みなさん、ご卒業おめでとうございます。金光学園は私の母校であるため、私はみなさんのことを「生徒」としてだけでなく、「後輩」としても見守ってきました。自分が充実した6年間を過ごした様に、生徒（＝後輩）たちにも、日々の学習の中から、様々な行事の中から、先生や仲間とのかかわりの中から、人生の糧を思いう存分得てほしいという強い思いを抱いて接してきました。この6年間、あらゆる場面でみなさんの成長を目にすることができ、本当に嬉しく思います。

Where there's a will, there's a way!

私はいつも卒業生に、この諺を贈っています。日本語では「精神一到何事か成らざらん」と訳され、しようという決意があれば道はおのずから開けるとい

とを伝えていきます。ㄷㄷとは、ある目的や決断に向けての確固として揺るぎない意志を意味し、目的達成のための意志力や決意を含んでいます。人生のあらゆる場面で、ㄷㄷ(意志) はとても大切です。夢や目標ができたなら、それを追い求める強い意志を持ってほしいと思います。

私がこの諺が好きで、共感を覚えるのは、wayに添えられた冠詞がtheではなくaである点です。人間誰しも、どれほど懸命に努力しても叶わない夢があったり、望み通りにはならない時があったりするものです。しかし、この諺は、「意志があれば道は開ける」と教えてくれます。私は、このa wayとは、実はthe best and happiest wayなのだと思っています。揺るぎない意志を持ち、一生懸命頑張っている人には、たとえ自分が熱望していた道とは違ったとしても、その人を真に必要とし、その人が本当に幸せになれる、何かしらの最善の道が用意されているのだと思います。みなさんが最も輝ける道が。

### ことばを大切に

天野 浩美

国語教師をやっていて、良かったと思うことは、授業をする中で、様々な文章を読み、筆者の生き方考え方に触れ、今まで知らなかった知識を得ることができること、時には物語の世界に想像を膨らませ、主人公の体験を我がことのように味わうことができるということ、その点では役得だなど思う。今年の問題演習ばかりの授業で生徒のみなさんにとつては味気ない時間だったと思うが、その中で心に残る詩に出会うことができた。  
(絶望の虚妄なること まさに希望に相同じい)

もとはハンガリーの詩人ペター・フィ・シヤンドルの詩ということだが、魯迅が引用して有名になったらしい。直訳すれば、「絶望が虚妄(嘘偽り)であることは、まさに希望が虚妄であることと同じである」といった感じだと思う。「絶望してはだめだよ、希望を持ちなさい」なら、ありがちな励ましのメッセージのようにも見えるが、絶望も希望も虚妄と打ち消してしまふこの言葉に衝撃を受けた。

人は絶望すると、まさに生きる望みが

なくなつたと思う。その時、それは虚妄だとはねのける強さ。一方、希望さえも虚妄であると希望の道を閉ざしてしまう強さ。そして現実を真摯に受け止め、目の前のことを淡々とこなしていく、それが生きる強さである、ということだ。今年にはコロナ禍で様々なことがあつた。まさに災難とも思えることも多くあつた。これから先も様々なことが待ち受けていることだろう。それでも、その時の自分をしっかりと見つめ、淡々と前に進んでいけば、大丈夫。生きていける。そんなメッセージをこの詩から受け取った。

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。いつも心に自分だけの大切な「言葉」を持っていてください。

### 今をたいせつに

久繁 正人

ご卒業おめでとうございます。3年間ないしは6年間の金光学園生活も今日で終わりです。皆さんにとって、学園生活はどのようなものでしたか。楽しいこと、苦しいこと、それぞれ感じ方は異なると思いますが、本当に多くのことを経験してきたのではないのでしょうか。色んな事





りには使っても使っていないなくても0円になります。次の日の為に貯金をするにはできません。しかし、次の日の始まりには、必ず、また新しく86400円がもらえます。すべてを使い切れることは難しいかもしれませんが、できるだけ自分のため、人のために使った方が得ですよ。あなたならどのように使いますか？

皆さんには、毎日、86400秒という時間が平等に与えられています。将来頑張りたいことが有る人、現状に満足していない人、今の自分を変えていくのは、今の自分身だけです。やりたいことが有っても無くても、時間は止まってはくれません。チャンスを掴み取るために必

要なことは、今、この瞬間をどれだけ一生懸命に過ごせるかということです。今できることをしっかりとやり切りたいと思えます。

まさに今この瞬間の時間をどのように使うかは、あなた次第です。

Make it count！今をたいせつに。

### 『開拓魂』で未来を切り拓け

藤井 幹久

21年前に、故郷である笠岡市にUターンで戻った春に、思い立って古城山の高い丘までランニングして上がりました。咲き誇る桜と、てっぺんからの抜群の眺めとともに私の心を動かしたのは、大きな石碑に彫られた『開拓魂』という言葉でした。高校生までは目に留まることになかったこの三文字は、大学卒業後金融業界で奮闘し、そこから自己実現のため、次のキャリアへと挑戦するため、古里に戻った私の心に強く突き刺さるものがありました。

私はこれから高校を巣立つ皆さんに、この変化の激しい社会にしっかりと目を向け、またその社会が、自分の後に来る世代の人たちにとっても生きがいのある

真の豊かな社会になるように、貢献していく使命を果たしてほしいと願っています。そのためにも、これからの社会についてよく学び、自分自身を磨く努力を怠らさず、辛いことも自分を成長させる機会と捉えて常に頭を上げて前に進んでいきましょう。また、自分の利益だけでなく人を思いやる気持ちを育んでいけることを切に願っています。金光学園で育てていただいた『開拓魂』で、未来の作り手として道を切り拓いていきましょう。そして一緒により社会を築き上げていきましょう。

### 卒業式を迎えるみなさんへ

内村 政司

皆さんご卒業おめでとうございます。合計3年間でありますが、私にとっては思い出深い学年でありました。皆さんにとってはどうだったのか気になる場所ではありますが、意義深い実りある学園生活であったとすれば幸いです。

中学2年生の大山登山に始まり、2年ぶりに復帰してから2年間、懐かしくもあり、目新しいことも増え、興味深い2年間でした。また、以前と変わらず感じたことは、友人が困っていると進んで手

を差し伸べようとする皆さんの姿を見る機会が多くあり、正直言葉使いや行動に幼さは感じるものの皆「良い人」なのだと感じました。あえて注文を付ける方がいと思います。照れて素直になれず誤解を受けてしまうことも多かったです。感じられましたので、これからは、照れずにそして素直に行動に移してほしいと思います。

また、例年と違い理系が2クラスだったこともあり、文系の理科基礎の授業も担当することとなり、ほぼ4階にいる生活でした。例年と違い、文系の人たちと話す機会が多くありました。どの程度皆さんの進路の実現に貢献できたか定か



卒業生保護者お礼のことば  
和田治子

はありますが、進路課としてはできる限りの力は尽くしたつもりです。ただ、自覚はないこともないので、話が長いので、とりとめの話をして皆に迷惑をかけたのではないかと、気を使わせたのではないかと、今になって思います。この場を借りてお詫びします。

自分でも何を書いているのかよく分からなくなってきましたので、そろそろ終わりにしようと思いましたが、最後に一つだけ言わせてもらいたいと思います。学生で無駄になることは何一つありません。いい加減な気持ちで臨めば、何も得るものがなく、真剣に取り組めばどんな小さなことでも必ず得るものがあります。今はまだわからないと思います。半信半疑でも構いません。心に留めておいてください。最後にもう一度、皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が実り多いものになることを心より願っています。

### みんなが大好き

山本 澄枝

2学期後半のこと、私の授業も残すところあと数回となったある日の授業。受

験では必要のない教科になった人も含めて全員が一生懸命に問題を解いています。そして解き終えた瞬間「数学って面白ええ」と笑顔で言ってくれた人にとって数学教師冥利に尽きる言葉でした。心から楽しみなが問題が解いていた姿が今でも忘れられません。また、定番の解答方法ではなく、よりスマートな解答を提示した時、「なるほど！」という顔で表現してくれた人がいたことも嬉しいことでした。

スマートで無駄のないエレガントな定理を知った瞬間、なんて数学は美しいのだろうと感動します。私は、数学は、ただ問題集の問題を解くために学ばず、もたなく、「論理的思考能力」を鍛え、更に世の中を生き抜く「脳力」を磨くために学ぶものだと思っています。考えれば考えるほど数学の魅力は尽きません。皆さんが小学校から学習してきた算数や数学。やもすると、計算など実践面ばかりが注目されがちですが、実は、生きていく上で何かを考える時や何かに向き合う時に、数学による考え方を武器にすることはとても有益だと思っています。

もう3年が経ってしまいました。3年前に巡り会えたかわいい皆さんのことを我が子のように思い、その時からずっと一人ひとりが自分の意志でしっかり前に進めるようになって欲しいと願い続けてきました。

そしてついに卒業。皆さんが卒業を前に書いた短歌を一人ひとりの顔を思い浮かべながら読みました。そして、「卒業の思い」で私に、メッセージをくれたその言葉は、本当に教師冥利に尽きる涙の出るメッセージでした。ありがとう。一緒に体育で卓球をしたこと、私の為に習字を書いてくれたこと、皆さんとの関わり全てが私の宝物になりました。私は「ここまでよく頑張ってきたね、おめでとう」と皆さん一人ひとりの顔を見ながら言いたいです。そして、普段は形として中々表せない両親への感謝の気持ち、この「卒業」という節目に自分自身で伝えて欲しいと思っています。ここまで成長できたのは、「両親あつてのあなた」だと思ふから。両親からいただいたかけがえない「いのち」を大切に、ここからは自らの力で前に進んで下さい。「卒業、おめでとう」

### 自分を信じ、豊かさを感じられる人生を

戸田 洋平

「卒業おめでとう、ございます。」

3年間ないしは6年間生活を共にしてきた母校を後にして、この春から皆さんは、それぞれの進路に向けて旅立ちます。新たな人生のステージに立つ皆さんには、「豊かさを感じられる人生」を送ってほしいと思います。

私は、人との出会いを楽しむことで、人生豊かになると信じています。人はものの見方・考え方がそれぞれ異なります。話したり意見を交わしたりすることで、様々な気付きが得られます。気付きは行動を促し、未来を創ります。私は大学時代、研究室の教授から研究やモノづくりの魅力について、実験等の研究活動を通して情熱を持って教えて頂きました。皆さんにも授業や日常生活の中で少しでもそれが伝わっていたらとても嬉しく思います。皆さんが活躍するこれからの社会は、大きな変化のある社会です。そのような中で、様々な選択をする機会があると思います。時には迷うこともあるでしょう。そのような時は、他人と比べるのではなく、

く、自分に問い続けてください。「本当はどうしたいのか、どう在りたいのか」と。答えはいつも自分の中にきつとあります。20世紀最大の物理学者アルバート・アインシュタインは、  
——大切なのは、  
——疑問を持ち続けることだ——  
という言葉を残しています。自然科学においても、人生においても、問い続けることで、本質に辿り着けると私は信じています。自分の直感を信じて、世のお役に立ち、成長する過程を楽しみながら、それぞれが自分の人生の主人公として、堂々と歩んでいってほしいと思います。これからの皆さんの未来にたくさんのお幸がありますように！



卒業生お礼のことは 川田清華

# 卒業短歌

## ■ 1組 ■

金光の豊かな大地に育まれ

明日へと羽ばたく学園生よ  
渡邊 空

春色のプレイリストを開いては

遠い昔の私を探す  
浅野 夢

君の言葉フツと水をすくうように

私を救う悩みの海から  
椎葉 実瑠

また明日なにかどこかを強く強く

意志を抱いて歩めばよからう  
妹尾 知美

## ■ 2組 ■

カキーンと鳴り響くあのグラウンドで

あの日描いた夢の甲子園  
後藤 魁李

なりたかった眩い十八、なれなかった不

透明であるままの私  
小原 千晴

青から黄伸び育つを見届ける

時の流れは吹き抜ける風  
延平 菜姫

翔ける心大きく手を振り君がみる

今では歩く同じスピードで  
姫路 沙彩

## ■ 3組 ■

友達と旅路で仰いだ夜の空

一際目立つ星の煌めき  
上野 裕貴

六年間溜息まじりの練習も

今となっては少しきみしい  
上田 颯大

あけぼのの青に未来重ねるも

うつつにあるは果てなき濃霧  
高橋 駿生

いつの日も追いかけて続けあがれた

先輩の姿いまだ遠くに  
杉本 彩代

#### ■ 4組 ■

どうでもいい明日忘れる思い出す

ふり返ればまたたしかな青春

青木 祐裕

弁当のふたを開けるとあふれ出す

ぎっしりつまった母の愛情

阿部絵莉菜

静寂の夜を刻む音机へと

MY“DEPARTURE” 希望の明日へ

大野 未貴

なつかしき歩んだきせきとにもあり

道は違えど会える日夢みて

萬木 萌日

#### ■ 5組 ■

学園に後ろ手でピースしながら

歩き出す群青色の残像を胸に

高森 裕介

梅の花咲く学び舎に集い来し

若人たちは燦と輝く

田中 健太

笑い合っいちばん輝く青春を

写真に残す友との思い出す

目崎 大智

六年間胸に刻んだあいことば

卒業してもずっとたいせつに

梶谷 悠

#### ■ 6組 ■

学び舎の記憶は永遠にうつろはじ

光のごとく過ぎ去りし時

岡田 敬生

たまきはる生の重きを知るこの世

願うはみなに永久の光あれ

武智 環太

瀬をはやみ曙杉の葉もやがて

浮かばず流れぬるぞ悲しき

土橋 果歩

大学生希望を胸に行く日々は

卒業までのカウントダウン

長谷川愛佳

## 卒業を前に思うこと

### 生徒

#### 1組 下見虎太郎

まず、3年間金光学園に通わせてくれた父さんと母さん本当にありがとうございます。言葉だけでは伝わらないと思うのでこれから行動で感謝の気持ちを示していきます。

この3年間を振り返って思うことは、部活動やその他いろいろなことに関して、続けることに意味があるという事です。辛いこと、嬉しいこと、たくさんのかしんごを経験していく中で、やめたいとかしんどいとか、たくさんさんの感情が湧いてくると思います。その感情と向き合うこと、時には逃げることもあるでしょう。しかし、逃げて向き合っても全て自分の経験として何かしらの意味があるものになります。それは、私がこれまでの短い人生の中で続けてきたものがあるから気づ

けたと思います。だから私はこれから先何かをする際には常に自分にとってそして、自分を支えてくれる人にとつてよかつたと思えるような意味を見出せる経験をしたいと思えます。そのため、何かを続けられる人間になります。

#### 挑戦の3年間

##### 2組 亀田 直哉

私は高入生として学園に入学しました。が、内部進学の子に馴染める心配でした。しかしそんな心配は必要なく温かく迎えてくれました。

そんな学園での3年間で大きな挑戦を2つ行いました。1つ目は高校2年で部活を転部したことです。野球部からバスケット部になりました。この経験で得たこ

とは、0から始めたことによる初心の気持ち、続けることの大切さです。謙虚に努力することができるようになりました。2つ目は進学ではなく就職を選んだことです。学園では約99%が進学をする中で、私は公務員試験を受けました。周囲には「なれるのはほんの数人だからやめた方がいい」と反対する人もいました。しかし家庭事情もあり、母の役に立ちたいという一心でめげずに頑張ることができました。この受験で感じたことは自分のしたいことや意志を貫くことの大切さです。

人の考えを吸収することも大切ですが、自分の意志を貫かないと挑戦は難しいと思います。

私はこれから社会人として生活しなければなりません。行動の1つ1つに責任が伴い、途中辞めすることもできません。だから、学園の3年間で身につけた初心の心を持ち続けることや挑戦する力を活かし、少しでも社会の役に立てる人間になれるよう努力したいと思います。

#### 自分らしく生きる

##### 3組 杉本 彩代

将来の夢が描けない。なりた職業が

分らない。目標を掲げ、次々と進路を決めていく友人たちがうらやましかった。中高で得たものはいったい何だったのだろうか。

「人をたいせつに 自分をたいせつに物をたいせつに」の合言葉。人や物を大切にするのはイメージしやすい。だが、どうすれば自分を大切にできるのだろうか。

6月、吹奏楽の部活に多くの時間とパワーを費やしていた生活が一変し、コロナ禍の受験生となった。不安だったが、自分を見つめる貴重な時間だった。先生方には、社会問題への向き合い方、生き方、死生観など、貴重なお話を聞く機会をたくさん設けていただいたが、ただ聞いておしまいになっていたと気付いた。

消化不良になっていた内容を反芻し、血肉にできたような気がする。私は何が好きなのか、何を大切にしたいのか、少しだけ見えてきた。「自分をたいせつに」とは深く考える時間を持つことかもしれない。

金光学園での6年間は、人生のさまざまな判断の指針になるはずだ。折に触れて立ち止まり、思い出したい。限られた人生を自分らしく生きていく。学びを支

えてくださった先生方や仲間、家族への恩返しだと思ふ。

### Where there's a will, there's a way ～意志があれば道は開ける～

4組 高橋南成子

この諺に出会えたのは3年前、高校のESの時間でした。その日から授業中に書いた諺の紙を家で毎日見て、日々の自分の力にしてみました。

金光学園の校門を潜ったあの日から6年。慣れない制服に身を包み、期待と不安で胸を膨らませ、初めての電車通学が始まった中学1年生から、長いようであつという間に6年が経ちました。卒業を迎えた今、6年間の金光学園生活を振り返ると、とても感慨深いものがあります。金光学園に入学して沢山のことに挑戦し、様々な経験をした6年間で、時に壁にぶつかり、下を向いたことも何度もありました。それでも、思い出されるのは、楽しかったことばかりです。大人へと成長するための人生においても大切な時期を、この金光学園で過ごせたことは、今の私の財産でもあり、人生の指針を私に与えてくれたと思っています。

う場所があります。6年間での沢山の人の出会い、金光学園で過ごした時間は、一生の宝物です。

最後に、6年間金光学園に通わせてくれた両親に感謝を伝えたいです。お世話になった全ての方への感謝の気持ちを忘れず、これからも金光学園で学んだ事を糧に、夢に向かって「挑戦」し続けます。今、自信を持つて言えます。意志があれば道は開ける。金光学園に通って良かったです。今まで本当にありがとうございました。

### 宣戦布告

5組 高村 廉

この文章を書くにあたって、金光学園で過ごしたこの6年間を振り返ってみると様々なことが思い出されます。私にとつて、それはどれもかけがえのない大切な思い出ですが、全部が全部輝かしくキラキラした思い出というわけではありません。本当にこの6年間、私の目の前には「壁」ばかりでした。それでも、学校を楽しいと思えたのは、いつも隣にいてくれた友達や全力で支えてくれた先生方、文句一つ言わずここまで育ててくれた両親のおかげだと思っています。本当にあり

金光学園生活は、私にとって「挑戦」の嵐でした。ですが、私が挑戦してきた事はどれも、金光学園に通わなければ出来なかったことばかりです。その中でも特に大きな「挑戦」をした事が2つあります。

1つは、中学3年生の時、海外研修でイギリスに短期語学留学をしたことです。留学は、入学時からの私の目標でした。初めての一人旅、知らない場所、言語の違う人々。寂しさと戸惑いもありましたが、温かいホストファミリーや現地の人々のおかげで、異国での生活は、とても良い貴重な経験でした。この経験が自分の視野を広げ、数々の「挑戦」への大きな一歩になったと思っています。

もう1つは少林寺拳法部での活動です。3年間、どんな練習も必死になって仲間と共に励んだ毎日。大会に向けて、怪我をしながらも汗を流した日々。少林寺拳法部では精神的にも、人としても成長する事が出来ました。2年次には、インターハイ準決勝まで勝ち進むことができ、仲間と共に分かち合った喜びは、一生忘れません。その日からは「来年は必ず決勝進出」と毎日練習に励みましたが、コロ

がとうございました。まだまだ未熟な私をこれからも見守っていてください。

「壁」と言っても、今、思い返してみると本当にちっぽけなものばかりです。それなのに私は、その壁から目を逸らし逃げ続けました。今年の6月、宗教の授業でのスピーチの時間で、「本気で頑張った」という記憶を作る」という目標を掲げたことを話させてもらいました。それなのに私は結局、いつものように逃げ続けてしまいました。私は、人生の中で一生懸命頑張ったというのがなくて、卒業を控えた今、「もつと一つ一つのことを一生懸命やっていたら自分にも何か誇れるものがあつたのかな」「頑張ればよかったな」といった後悔や劣等感を感じています。

春からみんなそれぞれの道に歩き始め、自分自身は大学生になります。新しい生活が始まり、周りの環境も今までと変わってきます。不安ももちろんありますが、それ以上に、自分を変えるチャンスだと思っています。今よりも自由になり、時間もある。自分次第でどうとでもなる。そんな時間を私は、有意義に使わせてもらいます。

「本気で頑張った。と4年後、胸を張る」

このような、かけがえのない「挑戦」ができたのは、どんな時も温かく見守り、最後まで進むべき道を示して下さった先生方、金光学園という素晴らしい環境があったからです。これから新しい道に進み、6年間通った場所を離れると思うと、胸に詰まるものがあります。ですが、私にはいつでも帰って来られる金光学園とい

ここに宣戦布告させて頂きます。

## 変わったことを思いながら

6組 滝口 進弥

6年間で振り返って最初に思ったことは、思っていたよりも長かった、ということだ。

誰かから「6年間はあつという間に終わる」ということを聞いていたのだが、結構長かったな、と実感した。そう思うほどに私の学園生活は充実していたのだろう。

学園生活を通じて、私は変わったなと思う。おそらく、6年前の自分が私を見ても、それが6年後の自分とは信じられないだろう。私は元々、自己表現が不得意な人間だった。今でも苦手な分野ではあるものの、小学生の頃と比べたら、幾分かまともになっていると思う。小学生の頃の私は、楽しいことがあっても、嫌なことがあっても、それらを誰とも共有せず、ずっと一人で抱え込んでいた。しかし、そんな私は学園生活を通じて大きく変わっていった。少数数ではあるが友人と呼べる間柄の人がいて、中には親友と呼べるほどに親しい人もできた。自分

の好きなものや嫌いなものためらうことなく話せるようになったなということと思う。

私が変われたのは学校の環境が私に合っていたからだ。授業や様々な学校行事、先生方や同級生。そういった事柄や人々との交流を通じていく中で変わることができたのだろう。学園生活で得た様々なことを胸に未来へと進んでいこうという決意で、私は満たされたのだった。

### 保護者

#### 色々な出会いに感謝

1組保護者 松浦 恵美

長女もお世話になった金光学園を二女が卒業することで、私の保護者としての学園生活終了の前に、日々寂しさが募っておりです。

娘達が金光学園と出会ったのは幼稚園の時参加した中学校の体育祭でした。幼稚園とは違う大きなグラウンドで鼓笛隊の演奏をした時は、グラウンドの後ろの方に大きなマスケットを見て、娘達がとても驚いたことをよく覚えています。当時は金光学園にお世話になると思っ

ませんでした。縁があり、入学することが出来ました。

娘は中学校からコーラス部に入り、夏休みは、サマーコンサートのために合宿をして歌や劇の練習をしたり、チャリデーイングの練習をしたり、本当によく頑張ったと思います。

コーラス部のコンサートが夏から春に変わり、高2の保護者を中心となり、コンサートの準備をすることが恒例で、いよいよ私達の順番になりました。一年前から保護者の皆さんと協力して、準備を進めて、後1ヶ月で本番となる昨年2月に、コロナウイルスが日本にも発生するようになり、準備してきたスプリングコンサートが5月に延期になりました。しかし、非常事態宣言があり、スプリングコンサートの中止が決まり、部員を含め、準備してきたので保護者もとても悲しい思いをしました。

中1の頃コンサートで高3の先輩が歌うマイウエイを聴きながら涙を流し、娘がマイウエイを歌えるように支えなければと思っていた。そんな私の夢はコロナで叶うことはありませんでした。でも、みんなが色々なことで我慢している時期なので、残念ですが、将来コロナが落ち

着いて、みんなの歌を聴ける日を楽しみに待ちたいと思います。

また、高校生からはサッカー部のマネージャーとして、部活の両立を頑張ったと思います。家では洗濯をしない子が、部員のために洗濯をしていることを聴き、部活をすることで、成長を感じることが出来ました。

金光学園では部活以外でも良い出会いがあり、また保護者の私自身も、保護者会に参加することで、思春期の子育てで悩む時期に、色々な家庭で同じような悩みを持っていることなどを共有することが出来、本当に心強かったです。今はコロナで出来ませんが、保護者会の前にする茶話会では、保護者の方からクラスでの子供達の様子聞くことが本当に有り難かったです。

金光学園では子供達だけでなく、保護者同士のつながりも深く、本当に良い体験を親子共々経験することが出来ました。

今はコロナで色々我慢が多い時期ではありますが、子供達をここまで良い方向に導いて頂いた先生、友人、後輩の皆さんとの出会いに感謝しております。

#### グローバル教育で得たもの

2組保護者 山本 陽子

学園は、充実した国際教育が行われており、在学中に韓国やニュージーランドの語学研修に参加したり、修学旅行では、シンガポール、マレーシアでホームステイしたりと、世界に触れ合う機会を沢山作ってあげることができました。その中で、英語が流暢に喋れるようになるだけでなく、環境が変わることで、自分で考える力が育ち、計画を立てて行動できる人になったように思います。又、外国人のホームステイを受け入れた時は、関わりによって親の目の前で語学力が上がっていき、英語が通じる喜びを見られるのは圧巻でした。留学生が、「留学生達の中で、今回が一番良くしてもらった」と声をかけてくれ、過ごした日々があまりに楽しかったので、金光駅まで留学生を送った時は親子で号泣しました。大きくなると子供と一緒に何かするといった事が少なくなり、親子の会話が弾まないこの時期に、一緒にホームステイを受け入れ、おもてなしができたことは、一生の思い出です。

娘が大学受験での面接で、「学生生活の中で、どのような良い経験を積まれました

か？」と聞かれ、グローバル教育で得た経験を語り、見事第1志望の大学へ合格しました。金光学園でなければこれだけ充実した時間は与えてやれなかったと思います。かけがえのない6年間をありがとうございました。ありがとうございます。

#### 出会いに感謝

3組保護者 道廣 夏子

金光学園に入学してから、あつという間に6年間が過ぎ去ろうとしています。しかも6年間皆勤を達成できたことを褒めてやりたいと思います。そして、たくさんのお事を得ることができた充実したのだったと感じております。

まず、たくさんのお会いです。同級生をはじめ部活動を通して先輩・後輩・先生方とたくさんのお友達を得ることが出来ました。大学について調べる際には会ったことのない卒業生の方々にまで親切にアドバイス頂けたことに感謝しております。

そして、高校での探究活動においては、自分の興味のあることに積極的に取り組む、「ジブングト学会」「岡山県高校生議会」「MY PROJECT AWARD2020中国 SUMMIT」と自己意欲的に校外発表

に参加する姿に成長を感じました。そこで出会った、多くの他県の友達とも今も交流しているようです。

学園生活で、かけがえのない沢山の「出会い」を得ることが出来たことに感謝いたします。娘は、これから自分の夢に向かって第一歩を踏みだそうとしています。夢を叶えるためには、大変な事もあると思いますが、努力をし、元気に頑張つて欲しいと思います。

最後になりましたが、金光学園の益々のご発展をお祈りいたしております。

#### コロナ禍の留学

4組保護者 亀山 妙子

中学の頃から海外に興味を持ち、高校生になってからニュージーランドのホームステイ、オーストラリアの姉妹校での体験などを通じて、留学への夢を持つようになりました。高校1年生の時に、モングルからの留学生を受け入れたことにより、留学の気持ちがいよいよ強くなりました。2年生になって学校からの推薦をいただき、AFSの海外派遣プログラムに応募し、3年生を休学しての約1年間のドイツ留学を決めました。

中学3年の修学旅行では古宇利島に民泊。学園初の試みを経験させていただいたこと、とても大切な思い出として心に残っています。

中学生の時は野球部に所属し、先輩卒部後はキャプテンに選んでいただきました。慣れないながらも立派にリーダーシップをとっていた姿、とても誇らしく見ていました。卒部時に先輩が書いてくれた寄せ書きを読み返すと、とても慕われていたんだと感じることができました。

また、グローバル教育に力を注いでおられる学園ならではの行事の中から、イギリス短期語学研修、台湾グローバル研修に参加させていただきました。そこでしか得られない貴重な体験、出会いがありました。

高校生になって、西日本豪雨災害、新型コロナウイルス流行。今まで経験したことのない災害や見えないウイルスという恐怖や不安と戦いながら日々を過ごしています。

一斉休校となった昨年の春、学園はいち早くオンライン授業を取り入れて下さいました。慣れないパソコン操作の先生もおられたと思います。先生方のご苦勞

オランダに近い、北海に浮かぶノルグーナイと言う島に派遣されることが決まり、2月14日に成田からフランクフルトに向かいました。フランクフルトから島まではICEを2度乗り換え、本土からはフェリーボートで約1時間の場所であり、冬は北海からの寒い風が吹きます。

現地の学校への通学は約4週間、日本とは違う授業を受け、それなりの違いを体験しましたが、コロナウイルスの感染拡大により、ドイツでも国境閉鎖の噂が広がるようになり、急遽帰国することになりました。3月17日早朝、ノルグーナイ島からフェリーに乗り、フランクフルトまで自力でたどり着いたのは度胸がついたと思います。成田には18日午後到着し、翌日からは日本でも入国規制が始まりました。本当に間一髪とはこのことだと思つと共に、留学の目的は達成できました。慢せざるをえない程度かもしれませんが、今後このウイルスがどのように展開する

か分りませんが、一日も早く収束し世界的に人々の移動が可能になって欲しいと思います。息子はコロナ禍が収まったから留学に再挑戦すると言っていますので、親としては早く夢が叶う日が来ることを望んでいます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ諸先生方には大変お世話になり有難うございました。これからの金光学園のますますのご発展をお祈りいたします。

#### 親として成長させていただいた6年間

5組保護者 加賀 直美

振り返るとあつという間の6年間でした。同級生が10名ほどの小さな小学校から一気に同級生が180名ほどに増え、うれしい反面、戸惑いや不安がとて大きかったと思います。それを支えて下さった先生方、同級生の子たちには本当に感謝しています。

入学式時には新入生願いの言葉を壇上で読み上げさせていただきました。親の方が緊張したこと、つい昨日のように思い出されます。

中学2年の山の学習でのホテル泊や、

を思い返すと今も胸が熱くなります。

進路では、息子の進むべき道を優しく明るく灯して下さった先生、まるでわが子のように真剣に向き合い考えて下さった先生。

これから進む道がどのような道になるのかまだ分かりませんが、息子ならどんな道でも夢に向かってひたむきに力強く進んでいくことと思います。

中高6年間という多感な年頃の息子を、時には厳しく時にはそれを包み込むほどの優しさでご指導して下さいました。先生方には心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

今後の金光学園のますますのご発展をご祈念申し上げます。

#### 全てのご縁に感謝。金光学園だから得られた宝物

6組保護者 和田 治子

息子が金光学園に入学してから6年。振り返ると、あつという間の6年間でしたが、息子は確実に成長致しました。

小学校の頃、6人クラスで男子は2人しかおらず、中学で沢山の同級生に囲まれる事を心配しましたが、私の心配も

よそに先生方や多くの仲間を支えられ、本当に毎日が有意義で充実した生活を送ることができました。

「学校が楽しい！」と笑顔で伸び伸び過ごせました。ほわんとした性格で、基本的に穏やかなタイプなのに、中学では生徒会長に立候補してみたり、ほつま祭で演技をしたり。忘れもしない高校2年生では、探究活動で、担当の三宅範行先生のご指導の下、岡山イノベーションコンテストで大きな舞台上に立ち、堂々とプレゼンテーションをした姿を見て驚き涙が止まりませんでした。コンテストでは大賞をとり、後日「ビジネスプラン・グランプリ」では、東京大学にてプレゼンをし、審査委員特別賞を受賞。息子が自分の進みたい道を見つけ、将来について夢を、自信を持った瞬間でした。金光学園だったからこそ得られた宝物です。

校長先生をはじめとする諸先生方、保護者の皆様、息子の成長に携わって下さった沢山の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。金光学園の益々のご発展をお祈り申し上げます。

# 道 (28) 金光 道晴

## 「とんび」

前回の12月号でのこの「やつなみ『道』」では、「金光町と映画ロケ」ということで、金光町がロケ地になって製作された5つの映画のことを紹介させていただきましたが、その後、昨年の11月下旬から12月中旬にかけてロケの真最中であつた「とんび」という映画ロケのことを次のように書かせていただきました。「この映画のメインのロケ地が金光町大谷の門前町の商店街になっており、連日大規模な企画で撮影が行われています。物語は妻を亡くした不器用な父親役を、主演の阿部寛さんが演じるただただ息子を愛し続けた30年間の物語で、苦勞しながら息子を育て、立派に成長させていくという涙なくしては見られない感動的な物語だそうです。……私は朝晩、このロケ地を歩いて通勤していますが、毎日この備後市の「みゆき通り商店街」を歩くのが楽しみになっています。……映画の公開は1年も2年も先になると思いますが、今から楽しみにしています」と書いています。

私の金光学園時代の同級生で、このロケの全ての日程のエキストラに応募した親友がいます。結局その親友は、計3回もエキストラに当選して、朝早くから夜遅くまで3日間、通行人の役や商店街の住人の役などに扮し、寒い中で頑張った

と楽しそうに報告してくれました。その他にも多くの知り合いがエキストラとして参加したという話も聞かせてもらい、何か映画や映画のロケがとても身近なものと感じるようになったのであります。

ロケが終わり、昭和30年代や40年代を想定した商店街のしつらえもすっかり取り除かれ、元の姿にもどってしまった時には何か寂しい気がしていましたが、年も明けて、映画ロケのほとぼりも冷めた2月になって、山陽新聞に小説「とんび」について書かれている記事が掲載されました。なんと書いた人の写真や名前を見ると山陽新聞社に勤務している金光学園の卒業生ではありませんか。それも私がまだ20代の若い教員時代の生徒で、同じ部活動で一緒に汗を流した卒業生だったのであります。本人は金光町でこの映画「とんび」のロケが行われていたことは当初は全く知らず、新聞記事にあるように友人に薦められて読んだ小説「とんび」の舞台が架空の都市「広島県備後市」だったから、自分の郷里でもあり、現在の勤務地でもある福山市やその周辺がモデルに違いないと思いつつながら小説を読み進めていったとのことでした。小説を読んで大変感動したそうですが、まさかその小説が映画化されることになっており、そのメインのロケが自分の母校の金光学園がある金光町で撮影されていたとは思ってもみなかったとのこと、記事にあるように1月29日の自社の新聞記事を見て初めて知ったとのことであります。

私自身も人の事は言えず、金光町でロケが行われるまで、

山陽新聞 令和3年2月7日

「とんび」の小説も、テレビで放映されたドラマのことも全く知りませんでした。この度「とんび」の映画ロケが行われるということで、はじめて知ったようなことでもあります。その後段々に小説を読んだり、テレビドラマを見たりして感動したという人の話を聞かせてもらったり、ロケのエキストラに参加した人達の話の色々聞かせてもらったりして、知ることになったのであります。映画は来年には公開されると決まったそうなので、必ず見に行きたいと思っていますし、この卒業生の書いた新聞記事を読んで、是非小説も読んでみたいという気持ちになつてるところであります。

長く続いているコロナ禍で、心配や不安な話題が多い中で、明るくほのぼのとした気持ちになつた話題であります。

知人に教えられ、最近読んだ本が、重松清さんの「とんび」である。父子の成長譚。「とにかく泣けて、感動する、いい話」と薦められた。早速買った本をめくり、「おっ」と思った。物語の



舞台が「広島県備後市」だったからだ。都市名こそ架空だが、本の描写によると、穏やかな海を見下ろせる瀬戸内の街。戦後は工業都市として栄えているという。地元・福山市、あるいは一円がモデルに違いない。知



福山支社長 小野暁

## 「とんび」

人からそのことは聞いていなかったのですが、少し驚き、うれしくなつた。話は昭和37年から進行する。翌年生まれの私と時代がすっぽり重なる。「スバル360」「コナツサブレ」「仮面ライダーズナック」といった、幼いころを思い出させる物や品があちこちに出てくる。読み進むうち、当時の備後市の住人になつた気がした。さらには読んでいて楽しかったのは、登場人物が皆、実に自然な備後弁をしゃべる点だ。「ほいじゃけん」「なにしようん」といった一言一言から、のどかで優しいイントネーションが浮かんでくる。一本気で照れ屋の父親ヤスさん、父を慕

い時に反発する息子アキラや、2人を支える周囲の人たちの人柄が、会話から見事に浮かび上がってくる。その「とんび」が映画化されるという。1月29日付の本紙で知った。あまりに「とんび」について「またまたびっけりした。記事によると、2022年に公開予定。『本物』の福山市では、福山城築城400年の記念事業が繰り広げられているタイミングだ。福山を全国PRする絶好の機会ととらえ、現在、さまざまな事業の準備が進められている。映画もぜひ話題となり、こんなにも温かな話の舞台となつた街のことを多くの人に知ってほしい。





**第24回ポランティア・スピリット・アワード 全国スピリットオブコミュニティ賞受賞**

中3 田中希莉子

私は小6の時、笠岡市地域おこし協力隊の相澤さんが開いた麦稈真田のワークショップに参加して、昔笠岡市で麦が生産され、麦わら帽子の材料となる麦稈真田づくりが産業だったと知り興味を持った。相澤さんが教えてくれた麦稈真田について多くの人に知ってもらいたいと思う、市内の製帽会社を見学したり、昔のことを知るお年寄りにインタビューしたりして新聞にまとめた。それを用いて、笠岡市のイベントで発表している。また、夏休みに地域の公民館で小学生を対象に麦稈真田の編み方講座を開き、歴史など

についても伝える活動をしている。ボランティアスピリットアワードでは、自分の活動についてプレゼンし、この賞を受賞した。自分の活動が評価され嬉しく思った。また、他の受賞者の活動も知ることができて良かった。これからも麦稈真田を広める活動を続けて、地域の宝を大切にしたい。



**2021年全国高等学校  
グロークル探究オンライン発表会  
日本語発表部門  
金賞・生徒間投票特別賞受賞  
英語発表部門 銀賞受賞**

高2 中藤 浩文  
岡邊こむぎ  
三澤 葵  
波邊 文奈  
高1 和田小優姫



1月30日に開催された全国高等学校グロークル探究オンライン発表会の日本語発表部門に参加しました。倉敷ガラスのPR活動から地域観光の活性化を狙った構想のプレゼンを発表し、今後の活動に向けてさらに精進を重ねていきたいと感じました。

先輩の取り組みから始まった白石踊の伝承活動を受け継ぎ、実際に白石島海岸清掃に参加した際、私たちは白石島の美しさに魅了されました。現地での取材をし、是非この自然を映像で伝えたいと思い、動画を制作しました。さらに、ハワイやベルギーの方々とオンライン会議では、その素晴らしい景色を伝えることができました。このような経験に基づき、この度の賞を頂けたことは大変うれしく思っています。今後も白石踊の伝承活動を続け、後輩にも伝えていきたいと思えます。

**第64回日本学生科学賞  
岡山県審査奨励賞**

高3 原田 大義

10月10日に行われた読売新聞社主催の第64回日本学生科学賞岡山県審査におい



て、「イシガイ科の貝類から見ると水環境の現状、イシガイ科二枚貝の生態と水環境による形状変化の比較から考える」とテーマにした研究で奨励賞を受賞しました。探究Ⅱ・Ⅲの授業の中で、学校周辺の里見川水系の河川と溜池でデータをとり研究を行いました。一人で多くの水環境のデータや貝類の形状計測を行い結果をまとめることは大変でしたが、大学進学後も研究を継続して行い水環境の評価表現方法を模索したいと思っています。



**岡山県スポーツ少年団顕彰功労者表彰**

内田 雅彦先生

内田雅彦先生が岡山県スポーツ少年団顕彰功労者表彰を受賞されました。「地域の小学生にスポーツにふれるきっかけとコミュニティの場を、という目的で金光卓球スポーツ少年団を立ち上げましたが、団員の保護者、地域の卓球愛好家、本校の卒業生のサポートもあって、10年余り続けることができました。現在も毎週水曜日の活動を団員は楽しみにしてくれています。今後も地域のために活動が続けていきたいと思えます」と語る内田先生のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとくございます。

# 活躍おめでとう

## 岡山県高校総体代替大会

少林寺拳法競技の部 男子単独演武  
文部科学大臣特別賞 受賞

高3 坂本 莉来

高校生活最後の大会で、最後にこのような素晴らしい賞を頂けたことを非常に嬉しく思います。それと同時に今まで支えてくれた全ての方に感謝します。2020年はコロナウイルスの影響で当



たり前の事や日常が沢山奪われました。ですがそのような経験を通して、日頃忘れかけていた「感謝の思い」を取り戻すことができ、部活動6年間の集大成を締めくくることができました。しかし、全国選抜大会やインターハイの中止で目標としていた全国大会入賞は戦わずして断念せねばならなくなったことは非常に悔しく思いました。この不完全燃焼で終わった思いを大学でぶつけ、この悔しさを超えるくらいの喜びに変えられるよう、誰よりも修練に励み、全国大会で必ず優勝し日本一をとってみせます。

## 岡山県高校総体代替大会

少林寺拳法競技の部 女子団体演武  
文部科学大臣特別賞 受賞

高2 虫明紗桜理

このような賞をいただき光栄に思います。今回の大会はこのメンバーでの最後の出場だったので様々な不安を持つての



練習でしたが、お互いを支え合い、全力で成果を発揮することができ、心に残る大会になりました。  
大会関係者の方々、先生方、両親そして団体のメンバーに感謝したいと思います。また今回の大会で得たことを今後の糧に、感謝を忘れず精進したいと思いません。応援して下さいました。ありがとうございました。

# やつなみ保護者会のページ

## 娘の成長の礎となった吹奏楽との出会い 音楽部吹奏楽団 保護者 中村 淳子

娘と私の金光学園音楽部吹奏楽団との出会いは小学5年生の夏に参加したオーブンスクールでした。広い体育館で心臓が震える程の迫力ある演奏と堂々とした立ち居振る舞いに親子で感動したことを覚えています。その2年後、御縁あって金光学園に入学し、体験入部してからは迷うことなく入部を決意し、吹奏楽一色の5年間でした。楽譜も読めない娘が本当についていけるのかと心配していましたが、先輩方に優しく、時に厳しく指導していただき、どんどん部活の楽しさにはまっていきました。中学生の娘からすると高校生の先輩方は雲の上の存在で、顧問の先生方と対等に意見を交わし、部をまとめていく姿は憧れであり目標だったと思います。娘も一年毎に経験を重ね後輩を指導する立場になり、当時の先輩方がどれ程悩み、大変な思いをしながら支えてくださったっていたのかが身に染み分かれると話してくれた時には、娘の心の

成長を感じ、とても嬉しく思いました。

そんな気持ちで迎えた高校3年生。5年間の集大成を発揮する最後の定期演奏会は子供達にとって特別なものであり、皆が心待ちにしていたのですが、新型コロナウイルスにより中止となってしまいました。今年が創部百周年の記念すべき素晴らしい年になるはずでしたが、想い叶わず無念さが残ります。

それでも何とか開催出来ないかと最後の最後まで諦めず模索してくださいました先生方には心から感謝しています。

百年という長い歴史の一員になった事、時にぶつかりながら絆を深めた仲間との出会い、広い心で見守ってくださいる顧問の先生方に御指導頂いた事は一生の宝物です。これまで本当にありがとうございました。

これから新しい歴史が刻まれていく事を心よりお祈り致します。

## 人生の化学変化のきっかけ

硬式野球部 保護者 伊藤 博一  
息子は小学校では町内会でソフトボー

ル、中学クラブチームで野球を始め、金光学園には高校からお世話になりました。皆様のご支援のおかげで今の息子が在ります。本紙面を借りて御礼申し上げます。

入学のきっかけは中学時代に高田監督のお人柄に触れたことでした。入学前、野球部の説明会の時に監督が言われた、「みんなには良い意味での化学変化を期待している」という言葉が印象的でした。

コロナ禍でより一層ハッキリしましたが、人は人との交流を通じた気づきにより成長し変化していくのだと思っています。

野球部の皆さんとの交流を通じて成長・変化し、お互いの「化学変化」による野球部の成長・変化に多少なりとも貢献できたのではないかと感じております。1年の春から投げさせていただき、たくさん

の思い出も頂戴しました。最後の夏の甲子園は目指すことすらできませんでしたが、どう在れば心に空いた大きな穴が埋まるのか？ 野球部員同士でたくさん

の話し合いを重ねて更に成長し、この2020年ではないとできなかつた、大変貴重な人生経験を積ませていただきました。

これからのいよいよ大海に飛び出し、人生の本番を迎える卒業生の皆様の更なる成長と変化にエールを送ります。

## 柔道部で学んだこと

柔道部 保護者 廣井 啓子

この度卒業される生徒の皆様、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。

今年はコロナ感染症の影響で皆が今までに無い経験をした1年でした。

お世話になった大好きな先輩方の卒業式に参加できない事を息子もとても残念がっています。

足を骨折し治療中の状態で入学した時は、迷惑がかかるだろうから、どの部活にも入れないだろうと部活動を諦めていたのですが、柔道部の先輩から声をかけていただき舞い上がるような気持ちで入部し、部活動を始める事ができました。

が、根性の無い甘ちゃんだったのでついて行くのに必死で、思うようにできず涙を流したことも多々あり「退部」の文字が頭に浮かんでいた時期もあったと思います。そんな息子を先輩方、仲間、顧問の先生方が励まし、支え、前を向かせ進ませてくれました。

退部して他の部活に入部していたらそれはそれで楽しかったかも知れません。しかし6年間やり遂げるという達成感は絶対に味わえなかった事だと痛感しています。

金光学園は沢山の部活があり、選択扱

が豊富なのも魅力ですが、6年間同じ部活を続ける事ができるというのもとても魅力のあることで、うちの息子にとつて心身共に成長するのにとても必要な時間だったと心から思っています。

その時間で学んだ思いやりや礼儀、厳しさを教えてくれた先輩方、仲間、顧問の先生方への感謝を忘れず、今後出会う人達にその大切さを伝えられるような人間になって欲しいと思います。

親では育てられない人間性を柔道部の皆様に育てていただき感謝しています。

今後も金光学園と柔道部の伝統と誇りが続くことを願っています。

## 自分と向き合えたかけがえのない走り

陸上競技部 保護者 加賀 直美

高校から陸上競技部にお世話になりました。兄も高校から陸上競技部に所属していたので、兄を知っている先輩方からかわいがっていただき、すんなりとなじみ慣れていきました。

元々、走るのが好きな息子。走っている姿は、苦しい中にも心から楽しんでるように見えました。記録会や大会時には競技場へ足を運び、応援するのが本当に楽しい時間でした。

短距離走の息子。兄の時は、カメラで録画し、疾走をレンズ越しで応援していました。息子の時は自らの目で観て、記憶として残しておこうとほとんど録画はしませんでした。

疾走前、スターティングブロックに足を置き、精神集中。「オンユアマーク」、号砲。息子がひたむきに一生懸命走っている時、いつもなぜか息を止めて応援していました。

同級生の男子がいない中でしたが、先輩や後輩に恵まれ、多くの思い出を作ることができたのではと思っています。

ゆめネットで、学園陸上競技部にスポットをあていただき、放送していただきました。3年生の時、新型コロナウイルス流行という事態となり、不完全燃焼のまま卒部というかたちとなるのではと残念な思いをいたしました。代替試合を企画実施してくださったことで、息子も区切りをつけることができたのではと思います。本当にありがとうございます。

佐藤洋平先生はじめ部顧問の先生方には大変お世話になりました。

今後の学園陸上競技部のますますのご活躍、ご祈念いたしております。

## 教養部編集後記

教養部 岡本こずえ

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。本年度は新型コロナウイルスの影響により、例年とは違う形になったものがとても多くありました。マスク着用での学園生活、あらゆる行事の変更と中止、また、延期がありました。その中でもほつま祭、体育会、一日旅行など自分たちの出来る事を精一杯楽しみました。出来る事を制限の中でするという事は、とても簡単なようでも難しいことだと思います。

生徒の皆さんは、そんな中でも協力をし、想像力を働かせ、華の学園生活になるように頑張ったことだと思います。今年もたくさんの生徒さんが自分の夢に向かい、目標を立て、新たな道へと進んでいきました。一人一人違う様な思いを抱えていたと思います。新しい場所、生活への期待と不安。そして、喜びや悲しみ、たくさんの出来事を共に経験してきた友との別れ。少しずつ成長していく自分への喜び。そんな生徒さんの想いを身近でみる事ができ、とても嬉しく感じております。3年間ないし6年間という時間に多くの人と出会い、学んで過ごした期間はこれ

からの誇りになると思います。私も、娘が卒業するまでずっと、学園とのこの繋がりを大切にしていきたいです。先生方、役員の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございます。皆様がこれからもたくさんの人と出会いを大切にし、未来

## 会報

令和2年度後半も新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者会活動はできる範囲での活動となった。

**手作り会とサークル活動** 11月から庶務部を中心に手作り会が始まりました。また、サークル活動もコーラス・スタンディンググラス・ハンドクラフト・和賀心の会・国際交流が活動している。

**第2回全役員会・第4回評議員会** 2月15日(月)に「第2回全役員会・第4回評議員会中止のお知らせ及び書面報告とご協議等をお願い」文書を全役員に郵送した。主な報告事項は以下の通り。①令和2年度会計決算見込みについて。②友愛セール収益金の使途について。③令和

が輝くものでありますよう、心より門出をお祝い申し上げます。そして、これから先も合言葉とともに益々の学園の発展をお祈りいたします。

3年度会長・副会長・監事選出の選考委員の決定について。選考委員長、山木陽子。選考委員、馬場優子、山下ますみ、片山尚子、岡本こずえ、橋本理美。(敬称略)  
④令和3年度地区委員・評議員選出について。⑤金光教春の大祭の接待奉仕のお願い。⑥教職員診断のお願い。⑦令和3年度やつなみ保護者会総会について。次回4月20日(火)最終の評議員会で審議・議決を予定している。

**臨時三役会** 2月15日(月)に第2回全役員会・第4回評議員会中止を受けて、今後の対応について臨時の三役会を開いた。

## 諸会合

○12月9日～1月29日県幼小中中P指導者研修会。オンライン。高橋監事参加。

# 未来を描く、魅力的な空間づくりを求めて

たてこと空間研究室

建築家・空間デザイナー

佐藤 悠馬 (高55回卒)



「将来は大工になる」と幼少期の頃から漠然と思っていました。単純に自分が描いたものをカタチにするのが好きでした。大工への憧れは、次第にデザインをする方へ傾き、建築家を目指すようになりました。

高校から金光学園で3年間学びました。優等生には程遠く、自分の興味があることだけを学んでいた学生でした。大学の進学は、やりたいことのある大学を選び、近畿大学工学部建築学科に進学しました。大学では、設計の意匠・デザインを専攻し、更に建築の世界に魅了されていきました。春夏の長期休暇を利用し、ヨーロッパの建築を視察したり、東京の有名な設計事務所へ修業に行ったりしていました。そこで、全国に同年代の同志が、現在も切磋琢磨できる仲間です。

どうせなら海外に挑戦しようと思い、当時日本の若手建築家で目覚ましく活躍されていた迫慶一郎氏が中国北京で主催する設計事務所に就職しました。就職した年は、2008年北京オリンピックが行われる年の春。発展途上の中国は、ものすごい勢いで街が作られていきました。当時の北京は、建築の実験場と言われる通り、世界中の有名建築家が設計した建築が次々と施工されていました。正に建築界の最先端で最前線の場所でした。有名な建築家、隈研吾氏やザハ・ハイドル氏などの事務所と競い合うような環境を体験できたことは、最大の経験となりました。



<焼酎Bar じゅげむ>

海外での多くの経験を得て、岡山に戻りいくつかの建築会社で更に経験を積み、2016年に『たてこと空間研究室』を開業を致しました。開業当初から、多くの知り合いの助けを頂きながら、住宅、店舗、オフィスの設計からロゴデザインまで出来ることを一心不乱に取り組んできました。

2020年4月からは、母校の金光学園の非常勤講師(探究)として、高校2年生に探究学習を通して、考えることの楽しさを伝える機会を頂いています。

そんな中、2020年12月に世界的に有名なアーティスト長坂真護氏のギャラリー設計の依頼を頂きました。彼は、ガーナのスラム街アグボグロシー地区にある、先進国が不法投棄した電子機器を題材に作品を創作されています。現代に、世界に、自分たちに対しても強烈なメッセージを含んだ力強い作品に触れることができ、多くのことを考えさせられました。その作品を展示するスペースをデザインすることは光栄であり、また、とても覚悟のいるものでした。作品と向き合うと同時に、先進国である日本人々が自分や自分を取り巻く環境を見つめなおすため

の時間をギャラリー空間を通じて、つくることが求められました。そして、その先にある未来へ導ける空間であることも考え設計しました。

『God is in the details(神は細部に宿る)』設計時にいつも意識している言葉ですが、長坂氏の作品に触れ、改めて限界まで想像し、細部まで思いをカタチにする意志の強しさを感じさせられました。このギャラリーの設計を通して感じ得た経験を、

高校生にも共有し、考えていければと思います。

建築の仕事は、どんなときも未来を想像していく仕事です。正解はなく、自分たちで答えをつくり上げていきます。それは苦悩も多いですが、カタチとして残り、多くの人々に関わり、寄り添っていきます。今後は、品質や性能、使い勝手も大切ですが、より気持ち良いと感じられる空間を拘って創造していこうと思っています。



<倉敷ロイヤルアートホテルB1 MAGO Gallery>

## Profile

- 1984 岡山県倉敷市生まれ
- 2003 金光学園高等学校卒業
- 2007 近畿大学工学部建築学科卒業
- 2008 [SAKO建築設計] 勤務 (北京)
- 2010 Atelier SORA勤務
- 2012 Innovation Studio Okayama 共同設立
- 2016 たてこと空間研究室設立

## Award

- 卒業設計 学部優秀賞
- 卒業設計日本一決定戦 セミファイナリスト 入賞
- JCD2009 天津ルーペ銀賞 (SAKO建築設計社)
- 2012 天津ルーペ世界で最も美しい教育施設13選
- JCD2013 天津ジグザグBEST100 (SAKO建築設計社)
- 2013 天津ルーペ世界で最も美しい教育施設13選
- 2014 オカヤマアワード2014 インテリア・プロダクツ部門
- 2019 からほり2049 シェアハウス実施コンペ最優秀賞
- 2020 『新居浜の家』住宅コンペ アイディア賞受賞
- 2020 大連オフィスコンペ最優秀賞 etc...

# 金光学園に育まれて 音楽部コーラスとその周辺

山路 真

さわさわとそよぐ稲穂、校舎のシルエツトを浮かびあがらせる夕日。私が金光学園に通っていた頃、好きだった風景である。どこから見ている風景かわかるだろうか。私は在学中、2つの部活動に在籍していた。音楽部コーラスとラグビー部の2つで、周囲からはよくわからない奴と思われていたに違いないし、実際に言われたこともある。冒頭に紹介した風景は部活動中にみることができた。そよぐ稲穂は中学音楽室、北側の窓から見ることができた。夏場は青々とした稲が本当に気持ちよさそうに風に揺れていたことを覚えている。残念ながら今はアパートになっていて見ることはできない。夕日はラグビーの練習の終わりに見ることができた。練習が終わり、着替える前にグ

ラウンド東にある鉄棒でけん垂をしていたのだが、冬場はちょうどその時間に夕日が高校職員室のある校舎越しにこちらを照らし、何とも言えない風景を見せてくれる。こちらは今でも見ることができず。

私の学生時代は部活動であつという間に過ぎてしまった。特に現在につながるものがコーラスである。高1の夏はNHK学校音楽コンクール岡山県大会で金賞を獲得するなど、入学したばかりのころはとても活気があつた。しかし、コーラスの創設当時から顧問である佐藤嘉子先生が退かれると、部は斜陽の一途。何とかしなければと、毎日、顧問の先生の所に足を運び、練習を自ら指導しようとしたことが懐かしい。その影響もあり、

教員にとつても、最も過酷な行事であつた。いつだったか1人、テントで朝を迎えた時にふと「これだ!」と思うことがあり、インナーな私が家族を巻き込んでアウトドアに向かうきっかけとなつてしまった。この思い出深い行事が無くなつてしまったのは、本当に残念でならない。

さみしい状態。ここから、私より1年早く赴任した吉永敬子先生と意見をぶつけないながら、現在に至っている。

ところで、私の現在の趣味は合唱とボードゲーム、そしてキャンプである。このなかでキャンプを趣味にさせてくれたのは金光学園で長年続けられていた大佐山教育キャンプの影響が大である。二泊三日のテント生活に加え大山登山もあり、おそらく学園の行事では生徒だけでなく



閑話休題。音楽部コーラスにおいて、出会いや出来事は沢山あつた。そのなかでも京都府立西城陽高校合唱部との出会いは忘れられないもののひとつである。コーラスの顧問となつて2年目、全国高等学校総合文化祭に出場する機会を得て、福井県へと向かつた。その帰り道、西城陽高校合唱部との交流会を持たせてもらった。着いてすぐに音楽室で演奏を見せてもらった。ダンスの一振りや鳥肌が立ち、第一声で頭をたたかれた思いになつた。演奏だけでなく、手作りの昼食会や楽しいゲームで私たちをもてなしてくれて、本当に充実した時間を過ごすことができた。この経験は現在の音楽部コーラスの活動の原点となつている。その後、定期演奏会にも行かせてもらい、そこで

の憧れからコーラスのコンサートがスター



卒業後、大学の男声合唱部に所属するだけでは飽き足らず、一般の合唱団にも2つ所属し、歌つてばかりの4年間を過ごした。そして、その時の多くの出会いが、合唱活動を含め様々なことで今も私を助けてくれている。

1年間の銀行員生活を経て、母校に勤務することになった。部活動の顧問はやはりラグビーとコーラス。しかしコーラスは部員が一桁となつており、なんとも



トしたのである。金光学園での経験は学生時代も教員になつてからも、いつも私に変化のチャンスを与えてくれた。ここで得たものを生徒に還元していくことが、恩返しのひとつになるであろうと思う。そしてそのなかで今度は生徒たちが私に変化を与えてくれるのだと思う。金光学園、本当にここは素敵な場所だ。

# ある日のホームルーム 高校1年



2学期の後半から3学期、高校1年生は来年度実施予定の修学旅行に向けて、事前学習の取り組みを行っています。北海道コース、オーストラリアコース、シンガポール・マレーシアコースの3コースで希望を募り、それぞれのコースでその地の情報をグループごとに調べています。

以前、修学旅行の事前学習をするとなると、旅行情報誌など、紙媒体での調査がいしか方法がなく、調査した内容もまた紙媒体でまとめていくものでした。パソコン教室は以前からあるものの、台数が限られており、修学旅行の事前学習においてはあまり利用できませんでした。ここ数年はノートパソコンやインターネット環境の整備のおかげをいただき、各グループに1台パソコンを利用することができるようになり、調査方法も大きく変化しています。さらに発表会についても紙資料の発表からプレゼンター



ション形式の発表が主となり、時代に即した形式へと変わることができています。普段からスマートフォンなどを使いこなして、動画サイトなどで上手なプレゼンテーションを見ている影響なのかは分かりませんが、生徒たちの作るプレゼンテーションの中には完成度の高いものも少なくなく、文字と写真の割合を工夫したり、アニメーションを巧みに操ったりして、堂々と発表する姿が見られました。

さらに、発表会当日の司会進行を生徒がするコースもあり、発表した内容



に対するコメントを一つ一つ丁寧に述べ、プレゼンターにとってもオーディエンスにとっても心地良い雰囲気を作ることができていました。

新たな知識を取り込む授業で時には苦しそうな表情を見せる生徒たちも、今持てるスキルを発揮してさらに伸ばしていく授業では途端に輝きを取り戻していく。その反対の生徒もいえずし、生徒の個性は本当に様々です。今後も様々な手法で生徒の個性・能力を伸ばしていきたいようにしたいものです。

## 表紙の言葉

中1 藤村 美友

「夜半より雪の別れとよ、と降る」  
さらさらと雪が降る中、桜が咲く。  
暗くて寒い冬が終わり、明るくて暖かい春が始まる。そんな季節の移り変わりを表現しました。

さらさらと降る雪。生き生きと花びらを広げる桜。その二つが重なり合った様子を想像しながら描きました。

私は「春」という言葉を聞くと、入学式や遠足、花見など、たくさんの楽しかった思い出が頭に思い浮かびます。その思い出を、桜の花、一つ一つに込めるようにして、作品をつくりました。みなさんは「春」ときくと、どんなことを思い出しますか。



※前号の表紙は

中2 丸本 芽生さんでした。

# 中2学年集会 2月20日(生)

## English Recital

### ステップアップの第1歩

1組 木曾さくら

私は勉強が苦手です。この次はがんばろう。「次は」と言う言葉を何度も繰り返してはだらけていました。ですが、English Recitalの8人のスピーチを聞いて、とても感動しました。同い年の人が、しかもあんなに短期間で、これほどのものを作り上げることができたのかと、とてもびっくりしました。私はこんなにも頑張っている人がいるのに、自分

このままじゃダメだと思いました。ステップアップの第1歩を踏み出そうと思います。

### 怒涛の6日間

1組 山本 伊織

私たち1組はクラスの出し物で「浦島太郎」をしました。何をするか決めるときにクラス内で意見がぶつかり、放課後も話し合いをしてやつのことで決まったときには、すでに本番6日前で、クラス全員焦っていました。練習を始めると何度注意しても直さない、おしゃべりするなど様々な問題がありました。ですが、たくさんさんの友達が協力してくれました。だんだん劇として成り立つようになり、クラス全体で劇と言う1つの作品を作ることができました。本番当日の朝もクラスで早く集まって練習をしました。やはりまだ少し不安が残っていました。ですが、その不安が消えるほどみんなからのやる気を感じ、1組で良かったと感じました。本番はスムーズに進み1番良い劇ができ、安心しました。当初は6日間と言う期間で劇ができるのかさえ不安でしたが、



今回大成功したことで私たちに大きな自信がつけられたと思います。1組としてこのようなことを成し遂げたことに自信を持ち、残り少ない中学2年生を全力でやり遂げ、3年生になっても忘れないように頑張っていきたいです。

### About English Recital

2組 島原 利駆

本番当日では無事にみんなが劇を完成させることができた。劇の練習では、途中囁んでしまうなどしていて本番うまくしゃべれるか不安だった。そして残された日が少ない中、不安の気持ちは

たのものの友達や先生のおかげだと思っただけで感謝したい。

### English Recitalを終えて

3組 瀧本 健心

先週の土曜日にEnglish Recitalを無事開催できたのでとてもうれしかったです。私は「3匹の子豚」と言う劇の長男の子豚として出演させてもらいました。劇の

練習期間も短く、本番当日までだめだめだったのもう諦めかけていたのですが、こころは思い切つてがんばるしかない。時間は僕を待ってくれないんだ、と心に叩き込みました。そして迎えた本番当日。私はものすごく緊張することもなく全力で子豚の長男を演じることができました。劇が終わる直後、拍手の音が小体育館内に響き渡りました。その時ああーやり切ったぞーと心の中で叫びました。来年ももっと頑張りたいです。

### エッセイを聞いて

3組 藤浦 紗瑛

私が1番印象に残ったのはエッセイです。私は前に出て読んだりはしていません。ですが前で読んだエッセイ30人、スピーチ8人のやる気がこっちにも伝わってきたので印象に強く残っています。全員の一生懸命な声がすごく「本気で頑張っているんだな」と思わせてくれて、私も人前で堂々とスピーチができるように頑張りたいと思います。長文を読んでいた8人の中には全てを暗記している人もいて、どうやって覚えたんだらう……と思いました。声に気持ちがこもっ

### 自信が持てたエッセイ発表

2組 瀬尾 稀俊

次第に高まっていた。でも、クラスのみんなが協力して劇を完成することができた。最初、キャスト役のセリフになったときのめんどくさいと言う気持ちには今は感謝が変わっていた。クラスで協力する事は大事だということを改めて実感した。そして、その後のスピーチやエッセイの人は、忙しい中、日々練習していたので凄いなと思った。これからも英語を通してたくさんの人と協力し、頑張っていきたいと思う。

僕は今まで2年生全員の前で何かを発表したりするのはなかったと思うので、エッセイを発表することになった時は不安だったし、とても緊張していた。だから友達に何度も聞いてもらったり文章を何回も書き換えたりした。それが結果的に本番で発表するときの自信になったんだと思う。いつもだったら本番に近づくと不安になるけど、逆に僕はワクワクしていた。本番でも囁んだりしてしまう事はあったけど自分の言いたいことが言えたので満足している。こうなっ



ていたし、手などを動かしながら読んでいたので私もできるようになりたいたいなと思います。その他にも、劇で心のこもった読み方をしていた人、その場面に合った読み方をしている人と、たくさん学ぶことがあって、学年集会があつてよかったなと感じました。またやりたいと思いました！

### みんなの姿を見届けて

4組 三宅 翔大

English Recitalを終えて初めに思った事は、想像の3倍以上でした。自分たちのクラスは、クイズを出し物としていましたが、1週間しか時間がなく、多分うまくいかないだろうと思っていました。金曜日のLHRは喉が痛く早退してしま「とりあえずできるところまでやろう」と思っていました。本番当日zoomをつなげて角南先生の「Ausieクイズ」を見て「すごいなあ」と思いました。名前だけしか聞いていなかったのですがクイズをやるだけなのかなと思っていました。しかし動画やかわいい動物の話、先生方の面白い話など想像の3倍以上でした。そしてクラスの出し物の番になり少し心

配だったのですが、大橋くんや吉原くんたちのおかげで、他クラスも巻き込んで楽しむことができました。その後のエッセイ&スピーチもすごくて城戸くんや吉田さん達のスピーチは、自分と同年と思えないほど心がこもっていて「自分もあんな風に読んでみたい」と思いました。自分は今回はエッセイやスピーチを聞く側だったので、次に発表できる機会があればやってみたいと思いました。

### 絶対にやってやる！

4組 宮原咲百合

学年集会5日前。私は急にエッセイの代表者に選ばれました。もともと暗記が苦手なため正直「あと5日で全部覚えて発表するの!? 私には無理だよ」と思っていました。でも休み時間に友達に手伝ってもらって、何とか覚えることができました。本番では1、2回台本を見てしまつたけれど、自分の中では本番が1番良かったと思うし、後からみんなに「めっちゃよかったよ」「すごかった」と言ってもらえて嬉しかったです。始めは「嫌だな」と思っていたけれど、終わった後は「楽しかった」「やってよかった」「いい経験



ができたな」と思うことができました。なぜ短期間でエッセイを覚えられたかというところ、自分の中で「絶対にやってやる」という気持ち芽生えたからだだと思います。だからこれからも何事にもそういう気持ちで立ち向かっていきたいと思えます。

## 生徒会活動

《中生徒会》 中学生徒会では、3学期に来年度の新役員を決める会長選挙が行われた。8クラスから10人の候補者が立候補した。立会演説会や公開質問会など全体が集まることができなかつたため、ZOOMや放送を用いて実施した。投票の結果、最多得票数者が2人という今までになかつた結果となつたため、評議員会・選挙管理委員会を開き、来年度の会長は2人・副会長に1人とする事とした。その結果、会長に城戸直之くんと南陽菜乃さんが、副会長に竹内煌瑛くんが当選した。新年度の事務局員の募集にも多くの人が参加してくれています。

《高生徒会》 2月12日(金)、第二回生徒会総会がオンラインで行われた。今年度の各種専門委員会、学年代表者会議、執行部の年間総括について審議され、すべて原案通りに承認された。なれない開催方式ではあつたが、運営は円滑に進み、発言した各種専門委員長、学年代表者会議議長、執行部らはいずれも堂々とした態度で発表を行うことができた。

《天文部》 夜間観測は実施できていないが、日中の活動として、太陽観測やほつまつ祭で上映しているプラネタリウムの修繕等を行っている。

《生物部》 冬から春にかけて、魚や虫たちにはなかなか出会えないが、小鳥はたくさん見える。学校の北側に出かけ、ウビタキ、メジロ、ヒヨドリ、カワラヒラ、シロハラを観察することができた。双眼鏡でのぞいて見える。かわいらしい動作に心を奪われた。

《書道部》 国際書道展(準大賞) 大塚萌衣(金賞) 石井怜実(銀賞) 久保さくら / 第15回全国高校生書道V.S-1グランプリ(臨書の部・グランプリ) 進藤春菜(創作の部・まほろば賞) 石井雄人(特選) 赤沢梨吏(奨励賞) 山田紋歌・遠藤万結香(優秀賞) 坂本沙織

《茶道部》 1月21日(木)に初釜を行い、濃茶のお点前なども教えていただいた。また、オンラインで行われた数内宗家の初釜の茶会を岡本先生の解説をききながら視聴し、本格的なお茶会の様子も知ることができた。

《音楽部吹奏楽団》 11月23日(月)、例年開催されているバンドフェスティバルが今年度はオンラインでの開催となった。本校

は「列車戦隊トッキュージャー」「ウエルカム」「芭蕉布」を演奏した動画を連盟ホームページで公開した。公開期間は終了したが、同じ動画を楽団オフィシャルYouTubeチャンネルで公開している。12月13日(土)、保護者対象のクリスマスコンサートを開催、「ジングルベル」などを演奏。その様子はゆめネットで放映された。12月25日(土)にくりしき作陽大学で岡山県アンサンブルコンテストが開催された。中学校の部に金管5重奏「ロックポット」、木管8重奏「鬼姫」、高等学校の部にバリチューバ4重奏「エスメラルダ」が参加、中学は共に金賞を受賞、高校は銀賞を受賞した。さらに木管8重奏は岡山県代表に選出され、中国大会へ進んだ。2月6日(土)、倉敷市民会館で開催の全日本アンサンブルコンテスト中国大会に中学木管八重奏が出演、「鬼姫」を演奏し、銀賞を受賞した。この期間、演奏会以外にも公式SNSやホームページでの情報発信や公式YouTubeチャンネルでの動画配信にも取り組んだ。ぜひ高評価、いいね！をお願いしたい。

《音楽部コーラス》 12月18日(金)にOHKのテレビ番組「ハナコのBuzzリサイ



チ」の収録を校内で行った。初めてのことであったが、部員も楽しんで取り組むことができた。

12月19日(土)に6月予定で延期されていた岡山県高等学校合唱祭が高梁市民会館で開催された。午前中の合同練習などはなく、各校リハーサル時間集まり、参加者以外は無観客で行われた。マスク着用など様々な制限はあるなかでの開催であったが、今年度、本番が限られるなか貴重な機会であった。部員もいい緊張感の中、久しぶりのステージを楽しむことができた。【曲目】[Choo Choo TRAIN]「ありがとう」

延期され1月開催予定であった浅口音楽フェスティバル、高梁川流域音楽会は共に新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

《高放送部》第73回高校卒業式の予行前日に機材の準備と設置を協力して行うことができた。

《文芸部》毎月小説を執筆し、批評会を行うことで研鑽を積んだ。

《軽音楽部》ほつま祭後に部内で発表会を行い、普段の練習の成果を存分に発揮した。

《ラグビー部》12月19日(土)に行われ

た美作市長杯ラグビーフットボール大会に合同Aチーム(岡山宮・岡山工業・金光学園)で参加した。合同Bチーム(岡山城東・津山工業・津山高専)に0-7で負け、合同Cチーム(倉敷工業・高松農業)に0-10で負け、プレトリリーグで第3位となった。コロナ禍の影響で、年頭に予定していた正三会は実施できなかった。1月23日(土)から始まった岡山県高等学校ラグビーフットボール新人大会には、合同尾Aチーム(高松農業・金光学園)で参加した。

1回戦は倉敷との対戦であったが、体調不良等による人数不足のために棄権した。2月7日(日)の交流戦では合同Bチーム(岡山工業・岡山二宮)に0-60で負けた。

《中男子ソフトテニス部》コロナウィルス対策をしながら、毎日放課後の練習を意欲的に取り組んでいる。新入部員が入り、ますます練習に熱が入るようになった。

《高男子ソフトテニス部》11月7日(土)8日(日)に岡山県新人ソフトテニス選手権大会県大会(団体戦)が浦安総合公園でおこなわれた。1回戦は不戦勝、2回戦は倉敷商業高校に2対1で勝利し、3回戦は岡山南高校に0対3で敗れたが、5年ぶりに団体に県ベスト16となっ

た。続いて14日(土)に水島緑地福田公園でおこなわれた県大会(ダブルス)には7ペアが出場したが、2回戦まですべて敗退した。

1月30日(土)に岡山県技術等級ソフトテニス大会が備前テニスセンターでおこなわれた。初級の部にそれぞれ4ペアが出場し、内・安原ペアが予選リーグを突破して決勝トーナメントに進出した。

《高女子ソフトテニス部》1月30日に浦安総合公園テニスコートで行われた、岡山県技術等級ソフトテニス大会の中級の部に松田・岡田ペアが出場し、予選リーグで敗退。

《中卓球部》12月19日に山陽新聞社杯争奪卓球選手権大会に参加した。男子シングル(中学2年生以下)で白神(L2)がベスト16、金子(L2)と岸本(L2)と島原(L2)がベスト32に入った。

12月25日に全国中学選抜卓球大会岡山県予選会に参加した。男子団体予選トーナメントで御津に3-0、操南に3-2で決勝1次リーグに進み、灘崎3-1に、石井に2-3、八浜に3-2で決勝2次リーグに進み、総社東に2-3、玉島北に3-1の結果、第3位で中国大会出場を決めた(1月に山口県卓球協会が中国

大会の中止を決定。

1月23日に岡山県加盟団体卓球選手権大会に参加した。男子団体予選リーグで荘内に5-0、竜操に2-3で2位トーナメントに進み、旭東3-1、操南スポ少に3-1、決勝で操山に3-0で勝った。

《高卓球部》12月13日に県高校新人卓球大会に参加した。白石(U1)がベスト64であった。令和3年1月11日に全国高校選抜卓球大会岡山県予選会に出場した。白石(U1)がベスト64であった。2月11日に山陽新聞社杯争奪卓球選手権大会に出場した。2月20日に県高校学年別卓球大会に参加した。1年生の部で、白石・難波がベスト32であった。

《中野球部》年始の最初の活動をオンラインで行なった。主将・副将を中心として練習メニューを自分たちで創造し、工夫しながら練習に臨んでいる。体力的に厳しい冬の練習を前向きに乗り切り、長距離走のタイムなど部独自の測定項目で自己ベストを更新できた者が多くいた。学年末考査では、「自己ベスト更新」を目標として掲げている。

《高野球部》例年1月2日に行われていたOB会総会ですが、今年度は新型コロナウイルス

ナウィルス感染拡大の影響を受けて開催を見送った。

3月3日に春季県大会西部地区予選の抽選会があり、対戦校が決定する。

《高サッカー部》岡山県高校サッカー新人大会備中地区予選会一次リーグが12月13日・19日に行われ、対倉敷工業(2-6)、対古城池(0-1)という結果であった。12月27日~29日に参加予定だった福山ウィンターユースフェスティバルは中止となった。毎年恒例のOB戦についても、今年はコロナ禍のため中止とさせていただきます。新入大会備中地区予選会代表決定戦が1月9日に行われ、対倉敷(1-3)という結果となり、惜しくも県大会出場とはならなかった。

《柔道部》1月16日に岡山武道館で第43回全国高等学校柔道選手権大会岡山大会の個人戦が行われた。男子個人戦においては3名が出場し、それぞれが健闘した。

2月24日の活動で、留学生のレオ君に参加してもらい、国際交流をすることができた。

《中高剣道部》1月23日に開催が予定されていた中学1・2年生剣道大会は中止となった。昇級昇段審査会にむけて練習

を続け、日々研鑽を積んでいる。

《中高少林寺拳法部》12月に予定されていた第2回中国高等学校少林寺拳法新人大会は中止となった。それぞれが昇級・昇段を目指して練習に取り組んでいる。高3坂本莉来・能勢采奈がそれぞれ令和2年度岡山県高等学校体育連盟の優秀選手に選出された。男女で同時に優秀選手表彰を受けるのは本校初である。

《中男子バスケットボール部》例年1月2日に行っているOB会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。校外での活動が難しい時期ではあったが、日々の練習に取り組んでいる。

《高男子バスケットボール部》1月に行われた第73回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会に出場し、1回戦は岡山城東高校と対戦し80-59で勝利し、2回戦は関西高校と対戦し107-64で敗れベスト8になりました。

《ダンス部》12月24日、ほつま体育館ステージで、部内発表会を行った。ほつま祭後から、新たな取り組みとして、学年を越えた縦割りチームでの練習を開始した。発表会では、グループごと、また学年ごとに日頃の練習の成果を発揮した。

# 生徒入賞作品

## ▼第66回青少年読書感想文コンクール 岡山県課題読書の部 優秀賞

中2 天岡 大和

「平和のバトン」は、僕には重すぎる。重すぎるバトンを持って、ぼくはこれからの人生を生きる自信がない。そして、さらに次世代へ、バトンをつないでいくことができるだろうか。

「平和のバトン」その意味を探るため、ぼくは何度もこの本を読みなおした。被爆者の思い、その思いを絵にする高校生への思い、彼らからバトンを受けとるために、ぼくは何をすべきかを考えながら。

この本には、広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが、被爆体験証言者の記憶を一年かけて油絵に描いて記録する『次世代と描く原爆の絵』プロジェクト

トについて書かれている。

多くの被爆体験者たちは、広島に原子爆弾が投下された8月6日のことを語るうとはしなかった。生き残った自分を責める気持ちから、あの日の壮絶な光景を思い出すことの苦しさから、被爆体験者の多くは、固く口を閉ざし、家族にさえ語ることがなかった。しかし、数十年の時を経て、

「このままでは、原爆のことが忘れられてしまう。」

と、重い口を開き始めたのだ。亡くなった方の無念の想いを無駄にしないため。原爆が再び使われることがないように。願いを込めて。

それらの想いを受け取り、広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちは、一枚の絵に描いた。一人の被爆体験者の記憶を、一人の高校生が絵として記録して

た絵だ。また、黒い雨が白いブラウスにしみをつくる、幼い少女の絵。まだ恐怖も現実も理解していない少女が、その後、目の当たりにする惨状を予感させる絵だ。救護所で目を開いたまま壁にもたれてなくなっていた少年の絵。彼の目に残る光は、憎しみ、悲しみ、絶望なのか。心に焼き付いた目の光の絵だ。焼け野原を歩き、やっと父と再会できた絵。この日の空の色は、体験者の心を表している。

すべての絵は被爆体験の記録であり、被爆体験者の記憶である。そこには、必ず心が描かれているのだ。被爆体験者は、このプロジェクトを通じて高校生たちにバトンを渡した。そして、高校生たちは、絵を描く作業を通して、バトンを受け取り、完成させることで、この作品を見る人へとバトンをつないでいく。

ぼくは、バトンを受け取っていいのだろうか。受け取る僕に何ができるのだろうか。僕には、核兵器廃絶に向けて行動を起こす強さも行動力もない。戦争のない世界にすることもできない。受け取っ

いく作業は一年に及ぶ。一か月に一度のペースで直接会い、体験談を聞き、絵にしていく。絵には、当時の光景だけでなく、被爆体験者の想い、熱さ、匂い、恐怖、喪失感、すべてのものが描かれるように、被爆体験者と高校生の心を近づけながら作業は進められた。

この絵には、大きな意味がある。原爆投下直後の様子を、被爆者の立場から残した映像としての記録は、ほとんどと言っていないほど残されてはいなかった。ぼくたちが目にする記録の写真は、米軍の記録写真がほとんどであり、被爆者の目から見た光景ではなかったのだ。『次世代と描く原爆の絵』は、その場にいた被爆体験者の見た光景の記録なのだ。

友達のを呼ぶために向かったブルーの光景。自身の命をつなぐこと、それできない現実と直面した気持ちを描いた

なり、亡くなった方も多い。だからと言って、戦争の記憶は決して消してはいけない。ぼくたちの心に残していくことが必要だ。絵画で、映像で残す手段は様々だ。それを受け取る心の在り方。記憶の『共有』こそ、平和のバトンとしてつないでいく

た戦争の記録を、さらに次世代へつなげる手段も思い浮かばない。この本を手にとったぼくの責任。探せ。考えろ。

何度も読み返す中で、ふと目に留まった被爆体験者小倉桂子さんの言葉。

「広島、長崎で何が起きたかを知ってくたさい。事実を知り、多くの人々と共有すること、絶対悪である核兵器の目撃者になることができます。」

『共有』というフレーズが、ぼくの心にすっと落ちた。バトンを受け取ることは、何かすることではない。『共有』することなんだ。原子爆弾を他人事にしないことが、バトンを受け取ることなんだ。

高校生たちは、作品を作りながら、被爆体験者と8月6日にタイムスリップし、その時の惨劇を、空気を、恐怖を共有していく。自分のこととして受けとった経験だからこそ、その重みも、これから目指す平和の尊さもわかる。

もう一度読み直す。自分のこととして、決して他人事にはしない覚悟で。バトンを受け取る。

戦後75年を迎え、被爆体験者は高齢と

## 学園だより

### 進路委員会

11月30日～12月1日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。3日に高1で、5日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

### 中学入学試験(適性検査型)

12月6日、180名が志願していた中学入試(適性検査型)が行われた。合格発表は9日に行われ、専願合格者は18日までに、併願合格者は2月9日までに手続きを完了した。

### 留学生

12月14日、A F S留学生として、フランスからレオ・ルドレフくんが来校した。高校1年に所属し、来年度7月まで滞在する。

### 個別面談

中高の全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。

### ウインターイングリッシュビレッジ

12月21日～23日、中1、中2の希望者を対象に、ベルリッツ講師による英語の特別講座を実施した。

### 終業式

12月24日、2学期終業式がオンライン形式で行われた。校長式辞、養護教諭からの新型コロナウィルス感染症予防についての諸注意、生活課からの諸注意があった。

### ウインターチャレンジ

12月24日～26日、高校特別進学クラス全員と総合進学クラスの希望者を対象にウインターチャレンジを実施した。3日間で集中して発展的な学習に取り組んだほか、自主学习と小テストにより基礎的内容を定着させた。

### 高校県外入学試験

1月10日、県外の中学生を対象とした一般入試(専願・併願)が行われ、37名の中学生が志願した。14日に各中学校宛に選考の結果が通知され、専願合格者は20日までに手続きを終え、2月11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。

### 始業式

1月13日、新型コロナウィルス感染防止対策の観点から、当初の予定

より日程を遅らせて3学期始業式がオンライン形式で行われた。校長式辞・高3生徒(小寺大起くん)の決意表明・生活課からの諸注意があった。

### 街頭交通指導

毎月1日は生活課の教員が、またその他にも定期的に学年団の教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

### 中学入学試験(教科型)

1月16日、192名が志願していた中学入試(教科型)が行われた。合格発表は19日に行われ、専願合格者は22日までに、併願合格者は2月9日までに手続きを完了した。2月11日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

### 大学入試共通テスト

1月16・17日に実施された大学入試共通テストには、高3生徒151名が出願し、中国学園大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学の3会場で受験した。



### 進路委員会

1月23日、高3では大学入試共通テストの自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

### 進路学習

1月26日、中1・中3はオンラインで高3生徒の話を聞き、勉強と部活動の両立や普段の過ごし方、高校入学後の心構えや受験について考える機会を持った。2月2日、中2はオンライン4名、対面1名で様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、働くことの意味・楽しさ・苦労などを学び、これからの進路を考えることに役立てた。

### 高校入学試験

1月28日、推薦入試(専願)と一般入試(専願・併願)が同時に行われ、それぞれに13名、76名の中学生が志願した。推薦入試、一般入試ともに2月1日に各中学校宛に選考の結果が通知され、専願合格者は9日までに手続きを終え、11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。

### 中学生徒会長選挙

2月5日に行われた来年度の中学生徒会長選挙の結果、会長には2年の城戸直之くん、副会長には2年の竹内煌瑛くんが選ばれ

た。今年度は最多得票数が同数であったため、評議員会及び選挙管理委員会の議論を経て、会長2人、副会長1人を新三役とした。

### 学年集会

2月20日、中2はイングリッシュリサイクルを実施した。教室でオンライン形式のオーストラリアに関するクイズを楽しんだ後、小体育館に移動してクラス毎の英語を用いた発表やクラス代表の英語スピーチを行った。2月12日に予定されていた中1の学年集会は、3月22日に延期になった。

### 高2芸術選択者発表会

2月20日、音楽選択者は練習の成果を浅口市民会館金光での演奏会で発表した。12月から2月にかけて、美術・書道の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

### 卒業式

2月27日、第73回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、生徒180名が学園を巣立った。

### ◆教主金光様のおことば

本日はおめでとうございます。ただいま代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、

世話になる全てに礼をいう心をもって進んでいかれますようお願いさせていただきます。



**お祝い** 内田雅彦先生には岡山県スポーツ少年団顕彰功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。北川弘樹先生には1月12日に長男のご誕生、友田勝己先生には2月26日に長女のご誕生、お慶び申し上げます。

### お悔やみ

土井康広先生の御祖母には12月27日にご逝去、東山映子先生の御祖父には1月23日にご逝去、山本幸子先生の御祖母には2月10日にご逝去、園田泰之先生の義理の御祖母には2月23日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

# 教室の窓から

今あることややできる要素にフォーカスを当て、開催できる形を模索し実施することができた学年集会。今年度は様々なことに制約が起こり、当たり前と思っていたことは決して当たり前ではないことに気づけた1年だった。それだけに、行事ができることに素直に感謝の気持ちを持った。できない状況からできる状況へ。皆の知恵を出し合ったことで開催できた行事の喜びは以前よりも確実に大きなものだろう。彼らの姿から学ぶことは多い。先の予測できないこんな今だからこそ、何のためにするのか、なぜそれをするのか、それをするのでどうなりたいのか……、そんな大事なことを立ち止まって考える時間を持つことができた。

石橋を叩いて渡ることも大事だが、まずはやってみる。今回の学年集会で、立候補した者、そうでない者がいる中で、

彼らはそれぞれに覚悟を決めて行動した。そして、HyBaronを繰り返していけば良いのだと、生徒の姿を見て思う。今回の学年集会で堂々とスピーチをしたり演技をする彼らを見て感動を覚えた。人が感動したり、心を動かされる時はどんな時か。それはその人の思いが、感情が、言葉にのっけているときだ。そこに相手を感動させてやろうなどと思う者はおらず、純粹に自分の感じたことを自分の熱量で伝える。これが何よりである。こういった経験の場の一つがこの学園生活であってほしい。

私は、人は人との関係によってしか磨かれていかないと思っている。私たちは自分の苦手を失くそうとする。でもその苦手も大事な自分である。自分の凸凹を削って小さく丸くするのではなく、いろんな人と関わることで凸凹を互いに埋めていくとどうだろう。大きな丸になっていく。これが成長していくということではないだろうか。コロナ禍をたくましく生きる生徒に刺激を受けた1年であった。

## 高2 芸術選択者発表会（美術・書道）



## 編集後記

「第18回本屋大賞」の結果発表まで残り一月を切った。出版社が主催するわけでも、作家や文学者が選考委員を務めるのでもなく、全国の書店員が最も売りたい本を選ぶという一風変わった文芸賞である。

大賞の発表に先立って、一月には候補10作が決定し、発表された。芥川賞を受賞して話題に上った、宇佐美りん『推し、燃ゆ』、直木賞を受賞したものの、吉川英治文学新人賞を受賞した、加藤シゲアキ『オルタネット』といった話題作もノミネートされている。

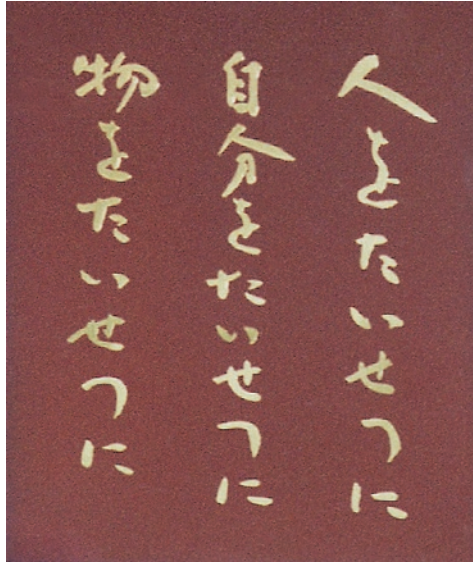
本屋大賞には、一般読者に近い感覚で親しみやすく、娯楽性に富んだ作品が選ばれやすいという。個人的には、まだ読んだことのない作家を探る際に、ノミネート10作から選ぶとハズレがないと思っている。旅行や外出のままならないこの時期だからこそ、知らなかった作家と出会い、新しい作品の世界に耽ってみるのもいいかもしれない。

令和3年3月10日印刷  
3月17日発行

編集者 金光学園やつなみ保護者会  
やつなみ編集部

印刷所 倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一  
玉島活版所

発行所 浅口市金光町占見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)